



ペテロの手紙  
からの教訓(II)

# 目次

1. 奇跡的な脱出	5
2. 勤勉にはしごを上る	10
3. 進んで互に尊敬し合うことにおいて	15
4. 最高の目的	20
5. 確かなものにする	26
6. 現代の真理のうちに強められる	31
7. わたしたちの益となる預言	36
8. 墮落した時代における純潔	41
9. 天来の光を大切にする	47
10. わたしたちの思いを防備する	52
11. 目的にかなった追加時間	57
12. どのような種類の人々か	62
13. 最後まで辛抱する	67

セブンスデーアドベンチス  
ト改革運動世界総会安息  
日学校部 (P.O.Box 7240  
Roanoke, Virginia 24019-  
0240, U.S.A)

安息日聖書教科  
Vol.100, No.3

編集&発行:  
S D A改革運動日本ミッション

〒368 - 0071  
埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保  
1607 - 1

TEL : (0494) 22-0465

URL :  
<http://www.4angels.jp>

E-mail:  
sdarm.shomaru@gmail.  
com

イラスト : Sermonview on the  
front cover; Map Resources  
on pp. 4, 46, 72.

安息日聖書教科は、他のコメントをいっさい加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。引用文は、簡潔で直接的な見解を提供するために、可能なかぎり短くされています。ある部分では、明瞭さや、適切な前後関係、また読みやすさのために〔 〕の括弧が使われています。抜粋されている原文をさらに研究することをぜひともお勧めします。

## まえがき

あなたは自分のクリスチャン生涯において勝利を求めているでしょうか。そうであれば、あなたは正しい場所に来ています。

「ペテロと『同じ尊い信仰』をさずかった人々へあてたペテロの第二の手紙の中で、使徒はクリスチャンの品性を成長させるための神のご計画を明らかにした。」(患難から栄光へ下巻 229)

「ペテロの手紙第二の第一章は、教えに満ちており、勝利の基調を響かせている。この章に提示された方法によって、真理が思いに印象深く迫っている。これらの言葉の研究とこれらの規則を実践することをもっと十分に推奨しよう。」(SDA バイブル・コメンタリ [E・G・ホト・コメント] 7 巻 942)。

わたしたちが史上まもなく天の至聖所で自分たちのために嘆願してくださる仲保者なしに立たなければならぬこの時に、真にクリスチャン品性を発達させることは、どれほど重要不可欠なことでしょう!これらの厳粛な思想を念頭に、世界中の安息日学校の生徒たちはペテロの第二の手紙からの教訓に焦点をあてていきます。

「わたしたちが自らを否定し、日々十字架を取り上げることが今ほど重要だったときはかつてなかった。わたしたちはどれくらい自己犠牲を実践しようとしているだろうか。」(教会への証 9 巻 186)

「わたしたちは神性にあずかり、世にある欲のために滅びることをまぬかれる者とならなければならない。…

神のみ言葉の中には、無条件の選択、すなわち一度恵みのうちにいれば、ずっと恵みのうちにいるなどということはない。ペテロの第二の手紙の第二章にはこの主題が平易で明瞭にされている。…

聖書は、一度は命の道を知って真理に喜んでいた者も背信によって墮落し、失われる危険があることを明らかにしている。であるから、日々揺るがない神への改心が必要とされている。

選択の教理、すなわち一度恵みのうちにいれば、ずっと恵みのうちにいるという教えを維持しようとするすべての人は、それによって『主はこう言われる』という率直な言葉に反している。…

真に改心した人々は、キリストの死の様にひとしくキリストと共に葬られ、このお方の復活の様に等しく水の墓からよみがえり、命の新しさのうちに歩むのである。真理への忠実な従順によって、彼らは自分の召しと選びを確かにしなければならぬ。」(SDA バイブル・コメンタリ [E・G・ホト・コメント] 6 巻 1114, 1115)。

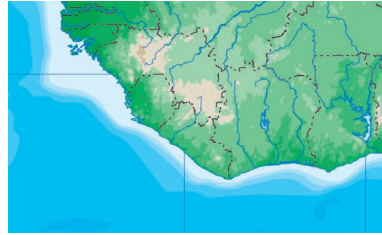
「[キリストの] ご生涯をながめ、模倣することによって、わたしたちはこのお方のみかたちに新たにされる。天の栄光がわたしたちの生活に輝き、他の人々に反射する。恵みの御座で、わたしたちはこのように生きることを可能にするために必要な助けを見出さなければならない。これが本物の聖化である。そして死すべき人間が、ぶどうの木につながる枝のようにキリストにつながることもより高い地位を望み得るだろうか。」(教会への証 5 巻 306) アーメン!

世界総会安息日学校支部

## 第一安息日献金 リビエラの礼拝堂、学校、事務所のために

アフリカ最後のフロンティアの一つとも呼ばれるリベリアは、アフリカ大陸の西海岸にある熱帯雨林の国で、シエラレオネ、コートジボワール、ギニア、大西洋に隣接しています。500万人を超える人口のうち、85.3%がキリスト教（セブンスデー・アドベンチストを含むプロテスタントがほとんど）を信仰し、12.6%がイスラム教を信仰し、1.5%が無宗教を主張し、0.6%が部族宗教を信奉しています。

アフリカ最古の共和国であるリベリアは、世界で最も貧しい10カ国の一つとされるこの国の基盤を破壊した14年間にわたる壊滅的な内戦（1989年～2003年）からの復興を今も続けています。農業は壊滅状態に陥り、インフラや産業は荒廃しています。



苦難のさなか、2011年にリベリアの兄弟たちがSDARM世界総会のウェブサイト [www.sdarm.org](http://www.sdarm.org) を通じてセブンスデー・アドベンチスト改革運動の教義に引き寄せられ、2012年にこの活動がここで組織されました。それ以来、リベリアの兄弟たちは首都のモンロビア市からリベリアの15の郡のうちの3郡に発展してきました。

内乱は終わったものの、その傷跡は今も全国各地で見られます。経済は破綻しており、政党に忠誠を誓わないとここで仕事を得るのは困難な場合が多く、状況は悲惨ですが、私たちの信仰は前進します。

リベリアでの活動を発展させるためには、本部と礼拝の場、そして医療宣教活動を強化するための場所が早急に必要とされています。また、安息日に予定されている試験や追加授業を欠席しなければならないため、困難に直面している子供たちに、小学校を提供することも必要です。

2019年に、ある兄弟（すでに亡くなっています）が、学校、療養所、オフィススペースの建設のために土地の一部を寄付してくれました。礼拝堂とこれらの必要なプロジェクトを開始するために、私たちはボン郡下流のニャンフォルラ（コリンズファーム）にある1エーカーの区画と、モンロビアにある約1/4エーカーの別の区画をもって祝福されています。

この観点から、私たちはリベリアにおける主の働きを発展させるために必要な目標を達成できるよう、世界中のすべての兄弟姉妹に第一安息日献金のご協力をお願いいたします。さきだってお礼申し上げます！

リビエラから皆さんの兄弟姉妹より



## 奇跡的な脱出

暗唱聖句:「また、それらのものによって、尊く、大いなる約束が、わたしたちにあたえられている。それは、あなたがたが、世にある欲のために滅びることを免れ、神の性質にあずかる者となるためである。」(ペテロの第二の手紙 1:4)

「ああ、ほんのわずかししか霊的な命を持っていない人々が永遠の命は、神性にあずかり、世にある欲のために滅びることを免れるようになった人々だけに与えられるのであることを悟るように!」(教会への証 9 卷 155)

推奨文献: 教会への証 5 卷 737-746;  
祝福の山 93-96

日曜日

6月30日

### 1. 目的のある手紙

- a. だれに、そしてなぜ、この手紙は宛てられましたか。またそれはみなどのように可能となりましたか (ペテロの第二の手紙 1:1)。

「瞑想すべきなんと広大な主題であろう—神の義とわたしたちの救い主イエス・キリスト。キリストとその義を考えると、自己義、自己に栄光を帰す余地を残さない。この章には立ち止まる場所がない。キリストの知識の各段階における継続的な進展がある。」(SDA パイブル・コメント [E・G・ホイト・コメント] 7 卷 942)

- b. わたしたちが神のみ言葉のうちにまごころから、熱心に神を求めるとき、どの報いが豊かにわたしたちの心のうちに流れ込みますか (ペテロの第二の手紙 1:2)。

「もし人が神性をつかんで、足し算の計画で働き、クリスチャン品性を完成させることにおいて恵みに恵みを加えるなら、神はかけ算で働いて下さる。このお方はそのみ言葉の中で『恵みと平安とが、あなたがたに豊かに加わるように』と仰せになっている。」(教会への証 6 卷 148)

## 2. 神を知る祝福

- a. どの祝福された保証が、わたしたち一人ひとりにもたらされ、特に困難な時に歓迎されますか(エレミヤ書 24:7; ヨブ記 22:21-23, 29)。

「わたしたちの希望は絶えずキリストが自分の義であられるという知識によって強められるべきである。わたしたちの信仰がこの基礎の上にとどまるようにしよう。なぜなら、それは永遠に固くもちこたえるからである。サタンの闇をくよくよ考えてその力を恐れる代わりに、キリストからの光を受けて、このお方がサタンのあらゆる力にまさること、またこのお方の支えのみ腕は、このお方に信頼するすべての人を支えることを宣言しつつ、その光を世に輝かせるために、わたしたちの心を開くべきである。」(教会への証 5 巻 742)

- b. わたしたちがイエスを親しく知るようになればなるほど、どのような結果となりますか(ホセア書 13:4; エペソ人への手紙 3:17-19)。

「非常に多くの人々が、高められたキリストのご品性と職務について持っている貧弱な見解は、彼らの宗教的な経験をせばめ、神聖な生涯における彼らの進歩を大いに妨げてきた。民としてのわたしたちの間の個人的な宗教は、低い衰退期にある。多くの形式、多くの機関、多くの口先の宗教がある。しかし、より深くもっと堅固なものがわたしたちの宗教経験の中に持ち込まれなければならない。」(教会への証 5 巻 743)

「イエスは『父みずからあなたがたを愛しておられる』と言われた。もしわたしたちの信仰が、キリストを通して、神の上にとどまっているなら、それは『たましいを安全にし不動にする錨であり、かつ「幕の内」にはいり行かせるものであり、『わたしたちのためにさきがけとなって、はいられた』ことを証明するのである。たしかに失望が訪れるであろう。わたしたちは苦難を予期しなければならない。しかし、わたしたちはすべてを、大きいことも小さい事も神にゆだねなければならない。このお方はわたしたちの悲しみの多さや重荷の重さに困惑されることはない。このお方の見守りはすべての家庭に及び、すべての個人を囲む。このお方はわたしたちのすべての事業やわたしたちの悲しみに関心を持っておられる。すべての涙に注目され、わたしたちの弱さを思いやって下さる。わたしたちのための神の愛のご目的が実行されるために、ここでわたしたちに降りかかることが許されるすべての苦難や試練はみな、『そのきよさにあずからせるため』である。こうしてこのお方のご臨在のうちに見いだされる満ち満ちた喜びにあずかる者となるのである。

『彼らの場合、この世の神が不信の者たちの思いをくらませて、神のかたちであるキリストの栄光の福音の輝きを、見えなくしているのである。』しかし、聖書は最も強い言葉でしっかりと、わたしたちの前に神の知識を得る重要さをおいている。」(同上 742)

### 3. 求めることと探すこと

- a. 今日の世の中の状態を述べなさい(ヨハネの第一の手紙 5:19)。それにもかかわらず、神はご自分のみ言葉の中でどれほど与えておられますか(ペテロの第二の手紙 1:3)。

「サタンは、人の思いを神の知識を得ることを妨げるようなことがらでいっぱいにしておこうと絶えず研究している。彼は彼らが魂の理解力を暗くし、失望させることを考え続けさせようとしている。わたしたちは罪と堕落の世にあり、キリストに従う者たちを誘惑したり、意気消沈させがちな感化力に囲まれている。救い主は、『また不法がはびこるので、多くの人の愛が冷えるであろう』と言われた。多くの人々は彼らのまわりに存在する恐るべき悪に自分たちの目をとめている。背信や弱さが至る所にあり、彼らは自分たちの心が悲しみと疑いでいっぱいになるまでこれらのことについて語る。彼らは思いの最高位に大欺瞞者の力強い働きをおきつづけ、自分たちの経験の失望させる様相について考え続ける一方、天父のみ力とその比類のない愛は見失っているようである。これらはみな、サタンの望むところである。わたしたちが神の愛とそのみ力についてはあまりにもわずかしか考えないで、義の敵が非常に大きな力でおおわれているかのように考えることは過ちである。わたしたちはキリストの力強さについて語るなければならない。わたしたちは自らをサタンのつかんでいる手から救い出すには無力である。しかし、神は逃れの道を定めて下さった。いと高きお方の御子はわたしたちのために戦う強さをもっておられる。そして『わたしたちを愛するおかた』を通して、わたしたちは『勝ち得てあまりある』のである。」(教会への証 5 卷 740, 741)

- b. 霊的な勝利はどのように、より大きな神の知識を求めて真剣に探すことに直接関係していますか(箴言 9:10; 15:14 (上句))。

「神を知ることはあらゆる真の教育、真の奉仕の基礎である。それは誘惑に対する唯一のほんとうの防御であり、わたしたちの品性を神に似たものにするのできるのはこのほかにはない。」

「このことは人類向上のために働いているすべての人に必要な知識である。品性の変化、生活の純潔、奉仕の能率、正しい原則の厳守はすべて神に関する正しい知識に基く。この知識は地上の生涯のためにも、またきたるべき国での生活のためにも重要な準備である。」(ミストリー・オブ・ヒーリング 381)

#### 4. はなはだしく尊く、大いなる約束

- a. わたしたちのクリスチャン生涯において、悲しくも何を過小評価しているかもしれませんか（ペテロの第二の手紙 1:4）。

「もしわたしたちが病的な経験を得ることを避けなければ、一刻の猶予なく真剣に、おそれおのいて救いの達成につとめ始めなければならない。自分のバプテスマの誓いに真実であるという決定的な証拠を示さない人が多い。彼らの熱心さは形式、世俗的な野心、誇り、自己愛によって凍りついている。ときおり、彼らの感情はかき立てられるが、岩なるキリスト・イエスの上に落ちない。彼らは、悔い改めと告白のうちに砕けた心をもって神の許へ来ない。自分の心のうちに真の改心の働きの経験をしている人々は、自分の生活に御霊の実をあらわすようになる。」（教会への証 9 卷 155）

「わたしたちはしっかりとキリストに錨を下ろしているとき、どんな人間もわたしたちから奪うことのできない力を持っている。なぜか？それはわたしたちが神性にあずかって世にある欲のために滅びることをまぬかれている者だからであり、すなわち、人類の頭となり、罪のしみもしわもないご品性を発達させるために人性という衣で覆われてこの地上に来られたお方の性質にあずかる者だからである。

わたしたちのうちの多くの者はなぜこれほど弱く、無力なのだろうか。それはわたしたちがキリストとそのご品性を研究する代わりに、自己を見て、自分自身の気質を研究し、どうしたら自分自身のために、自分の個性や、自分の特質のための余地を残せるかを考えているからである。」（同上 9 卷 187）

- b. わたしたちがこれらの約束を真につかむとき、わたしたちのうちにどのような変化が起こりますか（ローマ人への手紙 3:31; 8:14）。

「クリスチャンとしてわたしたちは自分の責任を自覚し果たすこと、そして自分たちが神と密接なつながりを持っていることを世に示すことを誓ったのである。こうして神の弟子たちの信心深い言葉と行いを通して、キリストが表されなければならない。

神はわたしたちがご自分の律法—ご自分のご品性の表現—への完全な従順を要求しておられる。…この律法は、きよくなれ、もつときよくなれと、わたしたちに言われる神のみ声のこだまである。満ち満ちたキリストの恵みを願いなさい。しかり、義を切望、すなわち飢え渇きなさい。約束は、『飽き足りようになるであろう』である。あなたの心がこの義、すなわち神のみ言葉が平和を生じ、正義の結ぶ実はとこしえの平安と信頼であると宣言している働きを求める激しい切望に満たされるようにしなさい。

神性にあずかり、世にある欲のために滅びることをまぬかれることはわたしたちの特権である。」（聖書訓練学校 1904 年 2 月 1 日）



## 5. 驚くほど分けられている

## a. 人類一人ひとりの子らに対する神のみ旨を説明しなさい(ヨハネによる福音書 17:17; 詩篇 119:151)。

「神はわたしたちにご自分のかたちに一致するよう要求しておられる。聖潔は、このお方の栄光の明るい光線が神の民から反射したものである。しかし、この栄光を反射するためには、わたしたちは神と共に働かなければならない。心と思いが悪へと導くすべてのものから空にされなければならない。神のみ言葉から霊的な力を得ようとの真剣な願いをもってそれを読み、研究しなければならない。天のパンが命の一部となるように、それを食べ、消化しなければならない。こうして永遠の命を得るのである。そのとき、救い主の『真理によって彼らを聖別して下さい。あなたの御言は真理であります』という祈りが答えられる。

御使たちがわたしたちの代わりになることはできない。しかし、彼らはいつでも魂をキリストへ引き寄せることにおいてわたしたちと協力しようと待機している。そして彼らはわたしたちが彼らと同士として働くよう求めている。」(聖書訓練学校 1904年2月1日)

「神ははっきりと、わたしたちに完全になることを求めると述べておられる。そしてこのお方がこれを要求するがゆえに、わたしたちが神性にあずかる者となることができるよう備えをして下さったのである。このようにしてのみ、わたしたちは永遠の命を獲得するのに成功することができる。この力はキリストによって与えられる。」(同上)

## b. まさに今、わたしたちへの神の召しは何ですか(コリント人への第二の手紙 6:15-18; 7:1)。

「宇宙の創造主は、あなたに愛情深い父として語っておられる。もしあなたが自分の愛情において世から分離するなら、そして世の汚染から離れたままとどまり、世にある欲のために滅びることをまぬかれているなら、神はあなたの父となって下さる。このお方はあなたをご自分の家族の中に養子縁組によって迎え入れ、あなたはこのお方の相続者となる。世の代わりに、このお方は従順の生涯と全天の下にある王国をあなたに与えて下さる。このお方はあなたに永遠の重い栄光と永遠に続く命を与えて下さるのである。」(教会への証 2巻 44)

## 個人的な復習問題

1. どこから、より大きな信仰がもたらされますか。
2. わたしを愛して下さいる神の愛について完全に正しく評価することを、何が妨げてきたかもしれませんか。
3. 今日の「善悪を知る木」がどのようにわたしの気を散らしてきましたか。
4. わたしがかつてないほどしっかりとキリストに錨を下ろすとき、何が起こりますか。
5. この教訓によって、わたしの欠点のある品性はどのように完全にされることがきますか。

## 勤勉にはしごを上る

暗唱聖句：「それだから、あなたがたは、力の限りをつくして、あなたがたの信仰に徳を加え、徳に知識を、知識に節制を、節制に忍耐を、忍耐に信心を」（ペテロの第二の手紙 1:5, 6）

「ペテロはわたしたちに真の聖化のはしごを提示している。その基礎は地におかれ、一方最上段は無限のお方の御座に届いている。わたしたちは一つの努力でこのはしごのてっぺんに届くことはできない。わたしたちは一つずつ上って行かなければならない。わたしたちが目を上に向け続け、信仰の創始者であり完成者であられるイエスをあおいでいないかぎり、この苦闘においてめまいを起こして気が遠くなり、落ちる危険性がある。」（ビュー・アソ・ワルト 1885年12月1日）

推奨文献： ミストリー・オブ・ヒーリング 483-489

日曜日

7月7日

### 1. 重要不可欠なクリスチャンの資質

a. わたしたちは勤勉に自分の信仰を築くとき、どの段階が続きますか（ペテロの第二の手紙 1:5（上句））。

「福音の信仰を受けた後、わたしたちの最初の働きは徳と純潔な諸原則を加えようと務めることである。こうして思いと心を真の知識を受けるために清めるのである。」（教会への証 1巻 552）

「いつも悪に抵抗するために警戒していることは絶えざる苦闘である。しかし、自己と闇の権力に対して次々と勝利を得るといふ報いがある。…

純潔で汚されていない徳がなければ、だれひとりどんな誉れある頂上にも上ることはできない。しかし、高尚な大志と義の愛は受け継ぐものではない。品性は買うことができない。それは誘惑に抵抗するために厳しい努力によって形成されなければならない。正しい品性の形成は生涯の働きであり、壮大な目的と結合した祈りにみちた瞑想の結果である。あなたが所有する品性の卓越さは、あなた自身の努力の結果でなければならない。友人はあなたを励ますことはできるかもしれないが、あなたのために働くことはできない。望むこと、ため息をつくこと、夢見することは、決してあなたを偉大なものにするのも良いものにするものでもない。あなたは上らなければならない。あなたの思いの腰に帯を締め、あなたの意志の強力な力を尽くして働きに出なさい。」（クリスチャン教育の基礎 87）

## 2. 救いのために必要な知識

- a. ペテロのはしごを上ることにおいて、得るようにと求められている知識の種類を述べなさい (ペテロの第二の手紙 1:5 (下句) ; ヨハネによる福音書 17:3)。

「使徒は信徒たちの前にクリスチャンの完全のはしごを提示している。その一段一段は、神の知識において、また止まることなく上るべき継続的な前進をあらわしている。…

福音の信仰を受けた後、信徒の次の働きは、自分の品性に徳を加えることである。こうして、心をきよめ、神の知識を受けるために思いを備えるのである。この知識はあらゆる真の教育、またあらゆる真の奉仕の基礎である。それだけが誘惑に対する本当の防壁である。そしてこれだけが品性において人を神に似たものとするのであり得るのである。神とそのひとり子イエス・キリストの知識を通して、信徒に、『いのちと信心とにかかわるすべてのこと』が与えられる。真心から神の義を得ようと願う人に対して何一つ良い賜物が差し控えられることはない。」(レビュー・アクト・ハルト 1912年9月19日)

わたしたちはキリストを学ばなければならない。このお方が贖ってくださった人々に対して、どのような存在であるのかを知らなければならない。わたしたちはこのお方を信じることを通して神性にあずかり、こうして世にある欲のために滅びることをまぬかれることが自分たちの特権であることを悟らなければならない。そのとき、わたしたちはあらゆる罪から、あらゆる品性の欠点から清められる。一つとして罪深い傾向を持ち続けていてはならない。…

神性にあずかるものとなるとき、先天的また後天的な悪への傾向は品性から切り落とされる。そしてわたしたちは善に対する生きた力とされる。神聖な教師からつねに学び、日々このお方の性質にあずかり、わたしたちはサタン誘惑に勝利するために神と協力する。神が働かれ、人が働く。こうしてキリストが神と一つであられるように、わたしたちがキリストと一つになることができる。」(SDAパイブル・コメント [E・G・ホイト・コメント] 7巻 943)

- b. クリスチャンの成長において必要な二番目の知識の種類をあげなさい (詩篇 77:6; コリント人への第二の手紙 13:5)。

「キリストからの助けを受けるために、わたしたちは自分の必要を自覚しなければならない。自分自身について真の知識を持たなければならない。キリストが救うことができるのは自分が罪人であることを知っている者だけである。わたしたちは自分が全く無力であることを認めて、一切の自己信頼を捨てるときにはじめて、神の力をつかむのである。」(教会への証 8巻 316)

### 3. 自己が、制御から外れているのではなく、制御されている

#### a. 福音の教師は、どの主題について詳細を述べていますか（使徒行伝 24:24, 25; ピリピ人への手紙 4:5）。

「わたしは八つの段からなっている聖化のペテロのはしごについて一時間半ほど民に話した。わたしは節制について詳しくのべ、両親が自分の子供たちに自己否定、自制について教え、精神的、道徳的、身体的強さを犠牲にした放縦から食欲と嗜好を守る重要性を強調した。

自制と自己否定についての教訓は、幼年時代と青年時代の教育によって受けるべきである。食欲は抑制され、教育されなければならない。これは両親にゆだねられた責任のある働きである。過去の世代の青年たちが社会の指標となってきた。

もし親が、食卓に健康的な食物をのせ、神経にさわる刺激的なものを排除すること、また同時に子供たちに自制を教え、彼らの品性を道徳的な力を発達させるように教育してきたならば、今は不節制のライオンを制御しなければならないようなことはなかったであろう。放縦の習慣を身につけ、彼らが成長と共にその力をもって強くなってしまう後に、青年時代に適正に訓練されてこなかった者たちが自分の悪習慣をやめ、自ら不自然な食欲を制するのはなんと難しいことであろう。成人に達してしまった後に、そのような者たちに教え、クリスチャンの節制の必要性を感じさせることはなんと難しいことであろう。節制の教訓はゆりかごに揺られている子供の時から始めなければならない。」（ビュー・アンド・ヘルト 1876年5月11日）

#### b. はしごのその次は何ですか。またなぜですか（ペテロの第二の手紙 1:6（上句））。

「神は人間にその存在の法則を犯す許可を与えておられない。しかし、人は不節制にふけるというサタン誘惑に屈することによって、より高い機能を動物的な食欲や情欲に従うものとしている。そしてこれらが支配力を得ると、御使よりも少し低く創造され、最高の教養を得る機能をもった人間が、サタンの支配に屈するのである。そしてサタンは食欲の奴隷になっている人々にたやすく近づくことができる。不節制を通して、ある人は自分の身体的、精神的、道徳的力の半分を犠牲にしており、また三分の二を犠牲にしている人がいる。サタンの考案を識別するはつきりとした頭脳を持ちたい人々は、自分の身体的な食欲を理性と良心の支配下に置かなければならない。頭脳のより高い力の道徳的な、また力ある活動は、クリスチャン品性の完全に欠くことができない。」（健康改革者 1878年3月1日）

#### 4. 節制なしには不可能な忍耐

- a. はしごにおいて、節制は次のどの重要な資質へと導きますか（ペテロの第二の手紙 1:6（中句）；ルカによる福音書 21:19）。

頭脳の力と身体の力と神経を弱くするあらゆる習慣と行動は、節制の後に来るもの、すなわち、忍耐のための訓練を無効にしてしまう。……

不節制な者、刺激性のものを用いる者、すなわちビール、ぶどう酒、アルコール性飲料、茶、コーヒー、アヘン、たばこ、またその他の健康を害するものを用いる者は忍耐強い人になれない。だから節制はわたしたちが忍耐の美德を加える前に、わたしたちの足をしっかりと踏みしめねばならないはしごの一段である。食物において、衣類において、働きにおいて、定められた時間において、健康の訓練において、わたしたちは生活と健康に対する正しい関係に入るために、熱心な努力によって獲得する義務がある知識によって、それを統制しなければならぬ。」（わたしたちの高い召し 69）

- b. 節制どのように忍耐の発達に助けとなりますか。またなぜ両方とも地上歴史の最後の時代に非常に重要なのでしょうか（ヨハネの黙示録 14:12）。

「食欲を満たして胃を乱用することは、教会内に存在する大部分の試練を招いている原因である。節制も理性もなく食し、働く人々は、理性なく語り、行動する。不節制な人は、忍耐強い人にはなれないのである。また不節制な人とは、必ずしもアルコールを飲む人だけに限らない。不節制な食事の罪、すなわち頻繁な食事、過食、濃厚な食物を食すこと、不衛生な食物を食すことは、消化器の健全な機能を破壊し、脳を害し、判断を誤らせ、理性的で冷静な、また健康的な思考と行動を妨げるものであって、これが教会の試練を招く大きな原因なのである。従って、神の民が自分たちの身体と精神をもって神の栄光を表すことができ、神に受け入れられる状態となるためには、食欲を欲しいままにすることを関心と熱意をもって拒み、すべての事で節制を実行しなければならない。そうする時に初めて、美しく明らかなる真理を理解することができ、生活にこれを実施し、思慮深く賢明な、またまっすぐな歩み方によって、我々の信仰の反対者たちに真理の働きを非難する機会を与えないようになるのである。」（教会への証 1 巻 618, 619）



## 5. 忍耐のうるわしい結果

- a. 忍耐を働かせるとき、わたしたちのうちに何が発達しますか（ペテロの第二の手紙 1:6（下句））。

「不節制は、争い、告発、悲しみをもたらす。しかし忍耐は家庭生活の経験に平和と愛という乳香を注ぐ。わたしたちが他人に対する忍耐という尊い恵みを働かせるとき、彼らはわたしたちの精神を反映し、わたしたちはキリストと共に集めるようになる。忍耐は教会において、家族において、地域において一致を求める。この恵みがわたしたちの生活に織り込まれなければならない。すべての人は進歩というこの段を上り、信仰に徳、節制、忍耐の恵みを加えなければならない。

『忍耐に信心を』。信心はクリスチャン品性の実である。もしわたしたちはぶどうの木につながっているならば、御霊の実を結ぶようになる。ぶどうの木の命が枝を通してそのものをあらわすようになる。わたしたちはもし信心という恵みの実を結びたければ、天と密接で緊密なつながりを持たなければならない。もしイエスのかたちを反映し、わたしたちがいと高き者の息子むすめであることを示したいならば、イエスがわたしたちの家庭における客となり、家族の一員とならなければならない。宗教は家庭においてうるわしいものである。もし主がわたしたちと共に宿っておられるならば、わたしたちは天においてキリストの家族の一員であることを感じるようになる。天使たちがわたしたちを見守り、またわたしたちのマナーがやさしく、寛容なものかを見守っていることを悟るようになる。わたしたちは礼儀と信心を培うことによって、天の宮廷に入るのにふさわしくなる。わたしたちの会話は聖なるものとなり、思想は天国に関することとなる。

エノクは神と共に歩んだ。彼は生活のすべてのことにおいて神を尊んだ。自分の家庭と仕事において、彼は『これは主に受け入れられるだろうか』と尋ねた。そして神を覚え、このお方の勧告に従いながら、彼は品性において変えられ、信心深い人となり、その方法が神を喜ばせる者となった。」（レビュー・アンド・ハラト 1888年2月21日）

## 個人的な復習問題

1. わたしはなぜ能動的かつ受動的なクリスチャンの徳を培う必要があるのですか。
2. わたしはどのように神をよりよく知ることができるようになりますか。またなぜ今それが重要不可欠なのですか。
3. 生活のどの領域において、わたしはより大きな節制を働かせる必要がありますか。
4. なぜ忍耐は、ますます敵意を持った攻撃的な社会において不可欠なのですか。
5. どこで、またどのように、エノクによって例証されたように信心が表されますか。

## 進んで互に尊敬し合うことにおいて

暗唱聖句：「兄弟の愛をもって互にいつくしみ、進んで互に尊敬し合いなさい。」(ローマ人への手紙 12:10)

「他の人々を自分よりもよりよく評価する気質を培いなさい。自己満足を減じ、自信を減じなさい。忍耐、寛容、兄弟愛を大切にいなさい。」(教会への証 4 巻 133)

推奨文献： 教会への証 5 巻 167-177

日曜日

7月14日

### 1. 親切

a. 神との本物の関係の必然的な結果、何があふれ出るはずですか(ペテロの第二の手紙 1:7 (上句) ; マルコによる福音書 12:28-31)。

「標準を掲げなさい、それを高く、なおも高く掲げなさい。神の律法が記録されている出エジプト記 20 章を人々に指し示しなさい。十戒の最初の四条はわたしたちの造り主に対する義務の概要が述べられている。自分の神に対して偽る者は、自分の隣人に対しても真実であることができない。神を最上に愛する者は、自分の隣人を自分自身のように愛する。誇りは自らを虚無へと掲げ、人間の代理人を自分自身の神に仕立てるよう導く。キリストの福音は魂を聖化し、自己愛を追い出す。」(教会への証 9 巻 211, 212) [著者強調]

「キリストを愛することができない人は、その子らを愛することができない。わたしたちがキリストに結合するとき、キリストの思いを持つ。純潔と愛が品性のうちに輝き出て、柔和と真理が生活を支配する。表情そのものが変化する。魂のうちにキリストが宿られるとき、変化させる力を発揮し、外面は内面を治めている平和と喜びについて証を担う。枝がぶどうの木から栄養を引き出すように、キリストの愛を飲む。もしわたしたちがキリストに接ぎ木されるならば、もし繊維が繊維によって生けるぶどうの木であられるお方に結合してきたならば、その事実を生ける実をたわわに結ぶことによって、その事実の証拠を示す。もしわたしたちが光であるお方とつながっているならば、わたしたちは光の通路となり、言葉や行いにおいて、世に光を反射するようになる。」(セラフ・メッセージ 1 巻 337)

## 2. 心からの親切

- a. 兄弟の親切は、どのように緊密に神を信じる真の信仰と—また、キリストのための適正な証言とつながっていますか (ヨハネの第一の手紙 4:20, 21; ヤコブの手紙 3:17)。

「わたしたちは信心に兄弟愛を加えるように訓告されている。ああ、わたしたちの品性にこの資質を加えるために、わたしたちはどれほどこの段階に進む必要があることだろう。わたしたちの家庭の多くでは、厳しく闘争的な精神があらわされている。批判的な言葉や不親切な行為は神にとって忌むべきものである。横暴な命令や、高慢でもったいぶったやり方は天で受け入れられない。兄弟の間でこれほどまで多くの相違が存在している理由は、彼らが兄弟愛を加えてこなかったからである。わたしたちはキリストがわたしたちに対して持ってこられた愛を他の人々のために持つべきである。人は天の主によって真の価値を測られている。もし人がこの地上の家で不親切であれば、彼は天の家庭にふさわしくない。もし彼が自分自身のやり方がどれほど人を悲しませようとお構いなくそれを持つとするとするなら、彼は天において自分が支配しないかぎり、満足することができないであろう。キリストの愛がわたしたちの心を支配しなければならぬ。そのとき、神の平安がわたしたちの家庭に宿るようになる。砕かれた悔いた精神をもって神を求めなさい。そうすれば、あなたは自分の兄弟たちに対する同情をもって溶かされるようになる。」(レビュー・アンド・ヘルト 1888年2月21日)

- b. 兄弟愛を培うにおいて、基本となる段階をあげなさい (マタイによる福音書 6:12, 14, 15; エペソ人への手紙 4:32)。

「わたしたちは、自分たちに対する神の憐れみが、わたしたちが他の人々に差し伸べる憐れみによってははかれるようにと求める。キリストはこれが主がわたしたちを扱われる規則だと宣言しておられる。〔マタイ 6:14, 15 引用〕。すばらしい条件! しかしなんとわずかしか理解されておらず、注意が払われていないことであろう。最もよくある罪の一つ、そして最も致命的な結果を伴う罪が、許さない精神にふけることである。どれほど多くの人が、恨みや復讐心を抱きながら、神のみ前に頭を垂れて、自分たちが許すごとく許したまえと祈ることであろう。たしかに彼らはこの祈りの重要性について真の自覚を持つことができている。さもなければ、彼らはあえて自分の唇でこの言葉を語ろうとはしないことであろう。わたしたちは毎日毎時、神のゆるしの憐れみに依存している。そうであれば、どうしてわたしたちは同胞の罪人たちに対して苦々しい思いや悪意をいだいていることができよう。もし、日々のすべてのやりとりの中で、クリスチャンがこの祈りの諸原則を実行しているならば、教会や世の中に、どれほど祝福された変化が起こることであろう!それが聖書の宗教の現実性をもっとも説得する証となるであろう。」(教会への証 5巻 170, 171)

### 3. 兄弟愛への妨げを克服する

- a. 真の兄弟愛の広さと深さを描写しなさい（ローマ人への手紙 12:9, 10; ピリピ人への手紙 2:3）。

「パウロはキリストの精神によって生じる純潔な無我の愛と、世の中にまん延している意味のない欺瞞的な見せかけを、わたしたちが区別するように願っている。この低俗な偽物は多くの魂を誤り導いてきた。それは違反者に忠実にその誤りを示す代わりに同意することによって、善と悪の区別を消し去るのである。そのような方針は決して真の友情から生じたものではない。それが生じる精神は肉の心にしか宿ることができない。クリスチャンがいつも親切で、同情深く、許す者となる一方、彼は罪に対して何の調和も感じることができない。彼は悪を嫌悪し、不信心者との交わりや友情を犠牲にしても、善なるものを固守する。キリストの精神はわたしたちが罪を憎むように導き、一方わたしたちは罪人を救うためにはどんな犠牲でも払う用意ができています。」（教会への証 5 巻 171）

- b. 兄弟愛はどれほどしばしば妨げられますか。またそのようなわなから、どのように救出されることが出来ますか（ルカによる福音書 6:45; ヘブル人への手紙 12:15）。

「ほのめかしや互いの鋭い批判が投げかけられるが、同時にまさにこれらのほのめかしや批判を投げる人々は自分自身の失敗に対しては盲目なのである。」（教会への証 4 巻 222）。

悪口は二重ののろいであり、聞く者よりも語る者により重く降りかかる。不和と争いの種をまく人は、自分自身の魂に死に至る実を刈り取る。悪い噂を流し、悪をほのめかす人はなんとみじめなことであろう!…

悪いことを語る罪は、悪い考えを抱くところから始まる。偽りには、あらゆる形態の不純が含まれている。不純な思いを一つ見過ごし、きよくない願望を一ついただくことは、魂を汚し、その高潔さを損なう。…もしわたしたちが罪を犯したくなければ、この最初の始まりを遠ざげなければならない。一つ一つの感情や願望は理性と良心に服して抑えられていなければならない。一つ一つの清くない思想はただちに追い払わなければならない。あなたの密室へ行きなさい、キリストに従う者よ。信仰のうちに、心をつくして祈りなさい。サタンはあなたの足を罠にかけようと見張っている。あなたはサタンの策略から逃れたければ、上からの助けを得なければならない。」（同上 5 巻 176, 177）

#### 4. 弟子という確かな証拠

- a. 多くの人の愛が冷えるとき、どの聖書の原則をしばしば忘れますか（テトスへの手紙 3:2）。もしわたしたちがそれを尊重するなら、何が起こりますか（ヨハネによる福音書 13:35）。

『「兄弟たちを訴える者」が〔同じ信仰を持つ〕これらの人々のうちの一人の心に入ることを許し、思いと想像力を支配するなら、嫉妬が生み出され、疑念や妬みをひそかに抱くようになる。そして自分自身は兄弟たちの愛と友情のうちに安全だと思っていた人が、自分は信頼されず、動機が誤って判断されていることを知る。偽りの兄弟は、自分自身の人間的な弱さを忘れる。そして、自分が神を辱め、キリストの聖徒というかたちでキリストを傷つけることがないように悪を思わず、語らないという自分の義務を忘れる。そして考えつく、あるいは想像できる一つ一つの欠点は容赦なく批判され、兄弟の品性が暗く疑わしいものとして表されるのである。

神聖な信頼に対する裏切りがある。兄弟の信頼のうちに語られた事柄が繰り返され、誤って表されている。どれほど無邪気で善意であっても、友人の交わりや兄弟の信頼という利点をわずかでも得るにはあまりに気高く、あまりに榮譽があると思われている人々の冷たく嫉妬深い批判によって、一つ一つの言葉や行動が精細に調べられる。心は神の憐れみ、裁き、愛に対して閉ざされている。そしてサタンが自分の犠牲者に対して表す冷たくあざわらう侮辱的な精神が表されるのである。

世の救い主はこのように扱われた。そしてわたしたちは同じ悪意の精神の感化力にさらされている。友人や兄弟に信頼をおくことが安全ではない時代が来た。

キリストの時代にスパイたちがその跡を追っていた。同様に今、彼らはわたしたちを追っている。もしサタンが信徒だと公言する者を兄弟を告発する者としてふるまうために雇うことができたなら、大いに喜ぶであろう。なぜなら、これをする者は、知らずにそうしたとしても、ユダがキリストを裏切ったときと同じように、まさにサタンに仕えているからである。」（レビュー・アンド・ヘルト 1884年6月3日）

「もし罪が兄弟のうちに明らかであるなら、それを他の人に漏らしてはならない。かえってその兄弟の魂を思う愛をもって、同情に満ちた心で、憐れみ深い心をもって、彼に悪を告げ、それから問題を彼と主にゆだねなさい。あなたは自分の義務を果たしたのである。あなたが判決を下すのではない。

兄弟を抑制したり、彼を非難したり、彼を有罪宣告の下に置いたりすることがあまりに軽く扱われてきた。神のための熱心があったが、知識に基づくものではなかった。もし各自が自分自身の心を整えるなら、兄弟が共に会うとき彼らの証は用意ができており、満ちたりた魂から出てきて、周りの真理を信じない人々は心を動かされるであろう。神の御霊のあらわれが、あなたがたが神の子であることを彼らの心に示すであろう。」（教会への証 1巻165）



## 5. 終わりまですべての道のりを

- a. 時の終わりに至るまで、どの訴えが教会になされていますか（ヘブル人への手紙 13:1）。

「わたしたちの道が友人に正しいと認められる時にのみ存在する愛と善意には、本当の価値はない。なぜなら、それは再生されていない心に自然なことだからである。神の子であると公言し、光のうちを歩んでいる人々は、自分の道が反対されてもいらだちや怒りを感じるべきではない。

あなたは真理を愛し、その前進を切望している。あなたはあなたを試し、証明するためにさまざまな状況に置かれるであろう。あなたはもし訓練のもとに自らを置くなら、真のクリスチャン品性を発達させることができる。あなたの命にかかわる利益がかかっている。あなたが最も必要としていることは、真の聖潔と自己犠牲の精神である。わたしたちは真理の知識を得て、もっとも隠されてきた奥義を読むかもしれない。さらに真理のために自分のからだを焼かれるために渡すかもしれない。しかし、もしあなたに愛と慈愛がないならば、あなたはやかましい鐘や騒がしい鏡鉢と同じなのである。…

あなたは闇の鎖につながれてきた哀れな魂や、決意や道徳力に欠けている魂の心の試練をほとんど知らない。他人の弱さを理解するために奮闘しなさい。困窮している人を助け、自己を十字架につけ、イエスにあなたの魂を所有していただきなさい。こうしてあなたが日常生活に真理の諸原則を実行できるためである。そのとき、あなたはかつてなかったほど、教会にとって、またあなたと接触するようになったすべての人々にとって、祝福となるのである。」（教会への証 4 巻 133, 134）

「もしわたしの兄弟姉妹たちが神のための伝道者となり、病人や苦しんでいる人々を訪問し、誤っている人のために忍耐強く親切に労するなら、つまり、もし彼らが型であられるお方を模倣しているならば、教会はその境界内においてことごとく、繁栄するであろう。」（同上 5 巻 176）

## 個人的な復習問題

1. 神を愛する人の態度に、他の人々は何を読み取ることができるか述べなさい。
2. わたしの心のうちにある兄弟愛についてより強い自覚を、どのように培うことができますか。
3. わたしが知っている人々のなかで、だれにより深い親切を示すべきですか。
4. わたしは罪をその正しい名で呼びながら、どのように告発の精神を避けることができますか。
5. わたしの考えにおいて、なぜわたしは弱いかもしれない人に厳しくなる傾向がありますか。

## 最高の目的

暗唱聖句：「これらいっさいのものの上に、愛を加えなさい。愛は、すべてを完全に結ぶ帯である。」(コロサイ人への手紙 3:14)

「献身した信徒たちが集まるとき、彼らの会話は他人の不完全さやつぶやきや文句のにおいがするものとはならない。愛、もしくは愛情、完全さのきずなが、彼らを取りかこむ。」(教会への証 1巻 509)

推奨文献： 教会への証 5巻 154-157, 547-549

日曜日

7月21日

### 1. 生来の愛情を越えたその向こう

a. なぜ兄弟愛の後になって初めて愛が述べられているのですか (ペテロの第二の手紙 1:7 (下句) ; ローマ人への手紙 5:7, 8; ヤコブの手紙 3:17)。

「わたしたちはキリストのために人を愛さなければならない。生来の心がわずかな数人を愛し、この特別な数人をひいきすることはたやすい。しかし、キリストはわたしたちにご自分がわたしたちを愛されたように互いに愛し合うようお命じになる。」(牧師への証 156)

b. イエスは何を完全と結び付けておられますか (マタイによる福音書 5:43-48; ルカによる福音書 6:36; コロサイ人への手紙 3:14)。

「人はわたしたちの救い主の純潔さと道徳的な高潔さに畏敬の念を覚える一方、このお方の無私の愛とやさしい温情が彼らの心を勝ち得た。このお方は完全さの体現であられた。」(福音宣伝者 73) [1892年版]

「自分は人よりすぐれているという思いあがった優越感をいだいてはならない。『だから立っていると思う者は、倒れないように気をつけるがよい。』とおしえられている。(コリント人への第一の手紙 10:12) 平安と休息は自分の意思をキリストのみこころに服従させるときに与えられる。そのとき心の中はキリストの愛が支配する。」(青年への使命 63)

## 2. 授けられる天の態度

- a. 真のクリスチャンの他人に対する態度の深さを述べなさい(詩篇 101:2; ピリピ人への手紙 2:1-4)。

「せっかちな、いらだちやすい気分は、キリストの恩恵という油によって、やわらげられ、静められる。罪がゆるされたという意識によって、『人知ではとうてい測り知ることのできない神の平安』が与えられる。(ピリピ 4:7) クリスチャンとしての完成に反するいっさいのものにうち勝つために熱心な努力がなされる。不和はなくなる。まわりの欠点ばかりみていた人が自分の品性のうちにもっと大きな欠点があることを認めるようになる。」(青年への使命 63,64)

- b. 上記で述べられたような種類の態度だけが、どのように各々わたしたちの心の中に宿ることができますか(ピリピ人への手紙 2:5-8; コリント人への第一の手紙 2:16)。

「わたしたちの平和を破壊するのは自己愛である。自己が生きている間は、屈辱や侮辱から自己を守ろうといつも見張っていなければならない。しかし自己に死に、わたしたちの命がキリストとともに神の中にかくれるならば、無視されても、軽べつされても、少しも心にとめなくなる。……

キリストの平和は変わらない永続的な平和である。それは人生のどんな境遇にも、この世の財産の額や友人の数によるのでもない。キリストが生きた水の泉であり、彼から得た幸福は決してうせ去ることはないのである。

家庭の中にキリストの柔和があらわされると、家族は幸福になる。それは争いをひきおこさせず、怒った返答をさせない。いらだった感情を柔らかくし、やさしさがしみわたって、そのたのしい囲いの中にいるすべての者にそれが感じられる。柔和のあるところはどこでも、地上の家族を天の一大家族の一部とするのである。」不当な非難を受けて苦しむことは、敵に復讐して良心の責めを感じるよりはるかによいことである。憎悪と復讐の精神はサタンから出たものである。そしてそれをもつ者には悪い結果をもたらすだけである。キリストのうちに住む結果生じる謙そんな心と柔和は祝福の真の秘訣である。『主はへりくだる者を勝利をもって飾られる。』(祝福の山 19, 20)

### 3. 愛：真実 対 偽り

- a. 神がつかもうとする一深く心にいただく一すべての人に与えようと待っておられる本物の神の愛を述べなさい（マタイによる福音書 5:6; コリント人への第一の手紙 13:4-8）。

「教会が繁栄するためには、愛という尊い植物を心にいただくために教会員の側できわめて注意深い努力がなければならない。心の中に繁茂できるようにあらゆる利点を持てるようにしよう。すべての真のクリスチャンは自分の生活の中でこの神聖な愛という特徴を発達させる。彼は寛容、慈善、そして妬みや嫉妬が一切ない精神をあらわすようになる。言葉と行為の中で発達するこの品性は、拒絶したり、近寄りがたく、冷たく、他人の利益に無関心であったりしない。この尊い愛という植物を育てる人は精神において自己を否定し、挑発の下でさえ自制心を放棄しない。その人は悪い動機や邪悪な意図を他人に転嫁せず、かえってキリストの弟子のだからのうちに見つかる罪に対して深く心に感じるのである。

愛は高ぶらない。それはへりくだる要素である。それは決して人を自慢させたり、自らを高ぶらせたりすることがない。神への愛とわたしたちの同胞への愛は荒々しい行為の中に現われることも、威圧的になったり、あら捜しをしたり、命令をしたりするように導くことはない。愛は誇らない。愛が統治している心は、他人が自分の好みにあってもあわなくても、彼らがわたしたちを尊重してもひどく扱っても、彼らに対してやさしく礼儀正しく同情に満ちたふるまいをする道へ導く。愛は活動的な原則である。それは他人の良いところを絶えず自分の前に置く。こうしてキリストに魂を勝ち取るという目的に失敗ないように、わたしたちが無分別な行動をしないよう引きとめるのである。愛は自分の利益を求めない。それは人が自分の安逸や自己放縦を求めるように促さない。愛の成長をしばしば妨げるのは、『わたし』にささげる敬意である。」（教会への証 5 巻 123, 124）

- b. 偽りの愛に対して、どのように警告されていますか（ヤコブの手紙 2:19; ユダの手紙 11-13）。

「長老 B は、非常に聖なる人のように見えた。愛について多くのことを語っていた。信仰について彼は次のように述べていた、『わたしたちがしなければならぬことは信じることだけである。そうすれば神は求めたものは何でも与えて下さる』。ホワイト兄弟は答えた、『祝福は条件に基づいて約束されている。ヨハネ 15:7。あなたがたがわたしにつながっており、わたしの言葉があなたがたにとどまっているならば、なんでも望むものを求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう。あなたの信仰の理論は、ちょうど小麦粉のたるの両側が切り落とされているように空っぽである。そして真の愛に関して言えば、それは非常に繊細な性質を持ち、決して聖書の真理の道から外れて踏み出すことはない。』」（霊的賜物 2 巻 46, 47）

#### 4. 重要な問題

- a. ペテロのはしごの中の段階として記載されているすべてのクリスチャンの徳において、豊かであることは、どれほど重要ですか（ペテロの第二の手紙 1:8）。

「クリスチャンの恵みがあなたがたのうちにあり、豊かであるように。あなたの救い主に最上にして最もよい愛情を与えなさい。完全な従順をこのお方のみ旨に捧げなさい。このお方はそれ以下のものはお受け入れにならない。虚無に自分の思いを明け渡している人々の冷やかしやあざけりによって、あなたの堅固さが動かされてはならない。評判が良くても悪くても、あなたの救い主に従いなさい。キリストの十字架を担うことを、あらゆる喜び、聖なる誉れとみなしなさい。イエスはあなたを愛しておられる。このお方はあなたのために死なれた。あなたが二心のない愛情をもってご自分に仕えることを求めないかぎり、あなたはこのお方の畏れのうちに聖潔を完成することに失敗し、ついに恐るべき言葉、離れ去れ、を聞かざるを得なくなる。」（教会への証 2 卷 237）

- b. 今日のストレスの多い世の中で、わたしたちはしばしば何を見過ごしますか（雅歌 2:15）。

「あなたは急を要する心配、重荷、義務に圧迫されている。しかし、あなたにのしかかる圧力が大きければ大きいほど、あなたの負わなければならない重荷が重いほど、あなたは神の助けをより多く必要としているのである。イエスがあなたの助け手となってくださる。あなたは絶えずあなた自身の道を明るくするために命の光を必要としている。そしてそのとき神聖な光線は他人の上にも反射するのである。神の働きは、完全で欠けるところがない。なぜなら、あらゆる部分が完全だからである。大いにうるわしく成功する生涯にするのは、世が小さい事だと呼ぶものに対する細心の注意である。小さい愛の行い、小さい親切な言葉、小さい自己否定の行為、小さい機会の賢明な活用、小さいタラントを勤勉に培うことが人を神の御目に大いなるものとする。もしこれらの小さい事柄に忠実に注意を払うならば、もしこれらの恵みがあなたのうちにあつて、豊かならば、それらはあなたをあらゆる良いわざにおいて完全にするのである。

神のみ事業にあなたの資金を惜しみなく自発的に捧げるだけでは十分ではない。このお方はあなたのすべての力を無条件に捧げるように求めておられる。あなた自身を差し控えることが、あなたの生涯の過ちとなってきた。あなたは自分の立場で神との緊密なつながりを維持することは非常に難しいと考えるかもしれない。しかし、あなたの働きはもしそうすることに失敗するなら、十倍も難しくなるであろう。  
...

神は完全かつ全体的な献身を求めておられる。そしてこれに不足しているものは何であってもこのお方に受け入れられない。あなたの立場が難しければ難しいほど、イエスを必要としているのである。」（同上 4 卷 543, 544）



## 5. 危険な忘却=盲目

- a. もしわたしたちがクリスチャンの恵みのどれか一つに欠けているなら、どうなりますか（ペテロの第二の手紙 1:9; ヨハネの黙示録 2:4）。

「進歩のはしごを上り、恵みに恵みを加えない人は、『盲人であり、近視の者である。彼は次々とはいしごの段を続けて上っていき、主イエス・キリストの恵みと知識において成長しないかぎり、はしごの上にある神の光が自分の上に反射する位置に自らを置いていないのだということに識別できない。彼が恵みに恵みを加えないとき、自分に対する神のご要求を忘れていたのであり、また神のご要求への従順を通して罪のゆるしを受けなければならないことを忘れていたのである。彼は神のみ前に罪人の立場にいる。もし彼がキリストの恵みを持っているなら、それらを働かせて増し加える。しかし、もし彼がよいわざにおいて神の栄光のために実を結ばないなら、彼は盲目と無知、自己放縱と罪の状態のままである。彼は『近視の者である』。彼の眼は、はしごの上におられる神ではなく、地上に固定されている。

この種類は、地上の利点は持っているかもしれないが、はしごの上の神から輝く光のうちに生きる特権と祝福を識別する力がない。彼らは自分たちの平安を生み出すものを知らない。彼らははつきりとした霊的な視力をもって後ろを振り返ることができない。なぜなら、彼らは天からの光のうちに物事を見ないからである。彼らがかつて神の愛を享受した。彼らは自分たちの罪を悔い改めて、イエス・キリストの僕となるために入隊した。しかし、彼らはバプテスマのときに神に対してなしたすべての誓いを忘れた。栄光と誉と不死を求めするために、自ら引き受けた厳粛な義務をすべて忘れたのである。」（原稿リ-ス 19 卷 350, 351）

## 個人的な復習問題

1. なぜ、またどのような種類の状況で、わたしは不正なえこひいきに陥る危険がありますか。
2. わたしの愛の精神は、どのような種類の条件下で萎える傾向がありますか。
3. どのように真実な愛 対 偽りの愛の違いを見分けられますか。
4. どのように小さな愛の表現をなおざりにする傾向がありますか。
5. 愛の領域において、わたしはどのように足りていませんか。またなぜそれがそれほど大きな問題なのですか。

## 第一安息日献金 世界総会の教育支部のために

「天は、魂に対する人々の無関心さに憤慨している。そのことについてキリストがどう思っておられるか知りたいだろうか。父母は、自分の子供が寒さと雪の中に行き暮れているのに、それを救えたはずの人たちからみすごしにされ、死ぬがままにほうっておかれたことを知ったらどう思うだろうか。」(各時代の希望下巻 374)



靈的に言えば、これらの「寒さと雪の中に命を失った」子供たちとはだれでしょうか。「無知と罪の鎖につながれて滅びようとしている幾百千万の魂が、彼らに対するキリストの愛を聞いたことさえないのである。もしわれわれと彼らの立場が入れかわったとしたら、われわれは彼らにどうしてももらいたいと望むだろうか。われわれは自分の力の及ぶ限り、そうしたことをすべて彼らのためにする最も厳粛な義務がある。」(同上 112)

「真理の光が至る所で輝き出なければならない。こうして今は無知のうちに眠っている心が目覚めて改心するためである。すべての諸国、諸都市で福音が宣布されなければならない。」(伝道 19)

「しかし、信じたことのない者を、どうして呼び求めることがあろうか。聞いたことのない者を、どうして信じることがあろうか。宣べ伝える者がいなくては、どうして聞くことがあろうか。つかわされなくては、どうして宣べ伝えることがあろうか。」(ローマ人への手紙 10:14, 15, 上旬)

世界的な伝道が、まだ戸が開かれている間にいま必要です。実にこの時、わたしたちは真にイエスのみ言葉をこだまさせることができます。「わたしたちは、わたしをつかわされたかたのわざを、昼の間にしなければなりません。夜が来る。すると、だれも働けなくなる。わたしは、この世にいる間は、世の光である。」(ヨハネによる福音書 9:4, 5)

この暗い惑星上でメッセージを伝える必要がある場所に、だれもが自ら行けるわけではありません。それでも、このメッセージを受け入れるには、わたしたち全員が何らかの犠牲を払う必要があります。地球全体が神の栄光で明るくなるまで、時間、配慮、エネルギー、資金をこの仕事に熱心に投資しなければなりません。世界宣教に対するあなたの忠実な寛大さは、大きな違いを生むことができます。

世界総会から皆さんの兄弟より

## 確かなものにする

暗唱聖句：「兄弟たちよ。それだから、ますます励んで、あなたがたの受けた召しと選びとを、確かなものにしなさい。そうすれば、決してあやまちに陥ることはない。」(ペテロの第二の手紙 1:10)

「真に改心してきた者は、キリストの死の様にひとしくキリストと共に葬られ、新しい命に歩むためにキリストの復活にもひとしく同様に水の墓からよみがえったのである。真理に忠実に従うことによって、彼らは自分の召しと選びを確かにしている。」(SDA パイブル・コメンタリ [E・G・ホワイト・コメント] 6 巻 1115)

推奨文献： 教会への証 9 巻 186-188, 191-194

日曜日

7月28日

### 1. 勤勉さを求める

- a. クリスマン生涯において、もっとも深刻な優先事項は何であるべきですか (ペテロの第二の手紙 1:10)。なぜここにはわたしたちの経験において十字架が含まれているのですか (マタイによる福音書 10:38)。

「神はしかるべき品性の卓越さを選んでこられた。そしてキリストの恵みを通して、このお方のご要求の標準に達する人はみな、栄光の王国に十分に入るのである。品性のこの標準に到達したいすべての人は、神がこの目的のために備えてこられた手段を用いなければならない。もしあなたが神の子らのために残された休息を受け継ぎたいならば、あなたは神との共労者にならなければならない。あなたはキリストのくびきを負うために、すなわちこのお方の重荷を負い、このお方の十字架を掲げるために選ばれている。あなたは『自分の召しと選びとを確かにする』ために勤勉になるべきである。聖書を調べなさい。そうすればアダムの息子娘は神の律法への不従順のうちに救われるために選ばれてはいないことを認めるであろう。世は神の律法を無効にしている。しかし、クリスマンは真理への従順を通しての聖化へと選ばれている。彼らはもし冠をかぶりたいたならば、十字架を負うように選ばれている。」(クリスマン教育の基礎 126)

「十字架を遠ざける者は、忠実な者に約束されている報いを遠ざけているのである。」(神の息子むすめたち 248)

## 2. 神と格闘する

- a. わたしたちが自分の品性の欠点に打ち勝とうと努めるとき、すなわち、こうして自分の召しと選びとを確かにしているときに、わたしたちには地上におられた人の子としてのイエスのうちに、どのような模範が与えられていますか（ヘブル人への手紙 5:7, 8）。

「町は寝静まって、弟子たちは自分の家に帰って睡眠のうちに元気を回復している間に、イエスは眠ることをなさらなかった。このお方の神聖な嘆願がオリブ山から御父のもとへ上っていた。それはご自分の弟子たちが日々世の中で遭遇するであろう悪の感化力から守られるように、そしてご自身の魂が強められ、来たる日の義務と試練のために支えられるためであった。一晩中、キリストに従う者たちが眠っている間に、彼らの神聖な教師は祈っておられた。夜の露と霜が祈りのうちに垂れておられるその頭の上に降りた。このお方の模範が従う人々のために残されている。

天の大君は、ご自分の使命に携わるかたわら、しばしば真剣な祈りのうちにおられた。このお方はいつもオリブ山へお訪ねになったわけではなかった。なぜなら、ご自分の弟子たちがお気に入りの隠れ場を知っていて、しばしば後について来たからである。このお方は夜の静寂、邪魔されない時を選ばれた。イエスは、病人をいやし、死人をよみがえらせることがおできになった。このお方ご自身が祝福と力の源であられた。このお方が嵐にさえお命じになると、それらが従うのであった。このお方は墮落に染まず、罪を知らなかった。それでいながら、このお方は祈られた。そしてしばしば強い叫びと涙を伴っていた。このお方はご自分の弟子たちのために祈られ、ご自身のために祈られた。このようにわたしたちの必要、わたしたちの弱さ、わたしたちの失敗、すなわち人類によくあることをご自身のものとして同一視された。このお方は力強い嘆願者であられた。わたしたち人間の墮落した性質の激情は持つておられなかったが、同様の弱さに囲まれ、わたしたちと同じようにあらゆる点において誘惑を受けられた。イエスはご自分の御父からの助けと支援を要する苦悩に耐えられた。

キリストがわたしたちの模範であられる。」（教会への証 2 巻 508, 509）

- b. このような種類の力強い祈りの生活の結果を説明しなさい（使徒行伝 4:13）。

「キリストの一生は、神との絶えざる交わりにささえられた変わることのない信頼の一生であった。天と地に対するキリストの奉仕は、失敗することも、ぐらつくこともなかった。

キリストはひとりの人間として、神のみ座の前に祈りつづけ、ついにはその人間性に天来の能力が通じ、人性と神性とが結合された。彼は、神より生命を受け、生命を人々にお与えになった」（教育 81）

### 3. 信仰のうちにゆるがない

- a. わたしたちが自分の召しと選びとを確かにすることにおいて継続的に勤勉さを維持しない時はいつでも何が起こりますか(エゼキエル書 33:13)。例をあげなさい

「神はダビデが妻を複数持ったことに対して、彼に裁きを持って臨むことにより、また彼自身の家から彼に向って反逆が起こる悪をお許しになることによって、ご自分のご不興をお示しになった。かつて高潔さのために神の心にかなう者と称されたダビデに恐ろしい災難が及ぶことを神がお許しになったことは、後の世代に対して、神がご自分の戒めを犯すことにおいてどんな人も正当化されることはないという証拠であり、かえてこのお方は人がかつて心の純潔さを持って主に従っていたときは正しく神の恩寵を受けていても、有罪な者を確かに罰せられるという証拠である。義人が自分の義からひるがえって悪を行うとき、彼らの過去の義は、正しく聖なる神の怒りから彼らを救うことはない。」(預言の霊 1 巻 379)

「もし魂が救われたいなら受け入れるべき真理がある。神の戒めを守ることは、受ける者にとって永遠の命である。しかし聖書はかつて命の道を知り、真理に喜んでいた人々が、背信を通して墮落し、失われる危険のうちにあることを明らかにしている。であるから、神に対して、断固とした日々の改心が必要とされているのである。

選択の教理、すなわち一度救われたら、常に救われているという教理を支持しようとするすべての人は、明白な『主はこう言われる』に反して、そう行っているのである。」(SDA バイブル・コメント [E・G・ホイト・コメント] 6 巻 1114, 1115)

- b. 対照的に、何がわたしたちの態度となるべきかを述べなさい。そしてなぜわたしたちは命にかかわる真理を記憶にとどめておかなければならないのでしょうか(エゼキエル書 18:21; コリント人への第一の手紙 15:1, 2 (上句))。

「どんなに大きなあやまちをしても、忘れていたと言いわけをしさえすれば、それで十分であると考えている者が多い。しかし、彼らも他の人びとと同様の知能をもっているのではなからうか。それならば、物をよく覚えるように頭を訓練しなければならぬ。忘れることは罪であり、怠ることは罪である。怠る習慣をつけると、自分の魂の救いを怠るようになり、ひいては、不用意のために、神の国にはいることができなくなるのである。」(キリストの実物教訓 334, 335)

「いつも聖書を持って、機会があるごとに読み暗唱しよう。たとえば道を歩いているときでも、一節でも読んでこれを黙想すると、それが頭に残るものである。」(キリストへの道 123)



#### 4. わたしたちの選択によって選ばれる

- a. もしわたしたちが召しと選びとをたしかにする条件に応じるなら、その結果は何ですか（ペテロの第二の手紙 1:10（下句）, 11）。

「神がご自分の子らに望まれる理想は、人間の最高の思いが達することができるよりもっと高い。『それだから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい』 マタイ 5:48。この命令は約束である。あがないの計画には、われわれをサタンの権力から完全に取り戻すことがもくろまれている。キリストは、悔い改めた魂を、いつでも罪から引き離される。主は、悪魔のわざを滅ぼすためにおいでになったのであって、すべての悔い改めた魂に聖霊を与え、罪を犯さないように道を備えられた。

一つの悪の行為に対して、誘惑者の力は言いわけにならない。サタンは、キリストに従うことを告白している人たちが、品性の欠陥について言いわけをするのをきくところどおりして喜ぶ。罪へいたらせるのはこのような言いわけである。罪を犯すことに言いわけはない。悔い改めて信ずるすべての神の子らは、聖なる気質を持ち、キリストのような生活にはいることができるのである。」（各時代の希望中巻 20）

- b. わたしたちの選択の力を通しての恵みの選択は、どのようにヤコブとエサウの生涯で示されましたか（ペテロの第一の手紙 1:2（上句）；ローマ人への手紙 9:10-14; 11:4, 5）。

「エサウとヤコブは、同じように神の知識を授けられた。そして、ふたりは自由に神の戒めの道を歩いて、神の恵みにあずかることができたのである。しかし、彼らは、ふたりともそうはしなかった。ふたりの兄弟は、異なった道を歩き、彼らの道はさらに広く大きく別れていくのであった。

神が独断的選択を行い、エサウを救いの祝福から締め出されたというようなことはない。神の恵みの賜物はキリストによって、すべての者に分け隔てなく与えられている。人間が滅びるのは、自分自身の選択によるのであって、そのように選ばれたのではない。神はみ言葉の中に、すべての魂が永遠の命に選ばれる条件をお示しになった。それは、キリストを信じる信仰によって、神の戒めに従うことである。神は神の律法と一致した品性を選ばれるのであるから、だれでも神の標準に達する者は、栄光の王国に入ることができる。……『わたしにむかって『主よ、主よ』と言う者が、みな天国に入るのではなく、ただ、天にいますわが父の御旨を行う者だけが、はいるのである』。（マタイ 7:21）『いのちに木にあずかる特権を与えられ、また門をとおって都にはいるために、自分の着物を洗う者たちは、さいわいである』（黙示録 22:14）。人間の最後の救いについて、み言葉の中にあらわされている選びとは、これだけである。」（人類のあけぼの上巻 226,227）

## 5. 勝利者にすがりつつ

- a. パウロは上に向かう自分の歩みをどのように描写しましたか（ピリピ人への手紙 3:12-14）。
- b. なぜ勝利はキリストのうちにあって可能だということがわかりますか（ピリピ人への手紙 1:6; ユダの手紙 24; コリント人への第一の手紙 1:30）。

「わたしたちはキリストを見ながら、キリストにすがりながら、一步一步キリストの高さにまで上がり、はしごを一段ずつのぼっていくことにより、勝利する。こうしてこのお方がわたしたちにとって知恵、義、聖化、贖いとなられる。信仰、徳、知識、節制、忍耐、信心、兄弟愛、そして愛が、このはしごの段である。…

永遠の命という値のつけがたい宝を得るのは、たやすいことではない。だれもこうしながら、世の潮流に漂うことはできない。彼は世から出てきて、分離し、汚れたものに触れてはならない。だれでも世俗の人のように行動すれば、世の潮流によって下流に運ばれる。だれも辛抱強い努力なく進歩向上することはできない。勝利したい者は、キリストにしっかりつかまっていなければならない。後ろを振り返ることなく、いつも目を上に向け、次々と恵みを得ていなければならない。個人個人の用心こそ、安全の代価である。サタンはあなたの魂で人生ゲームを遊んでいる。彼の側に一センチでもそれてはならない。さもないと、彼はあなたに対して優位を得ることになる。

もし天国に到着したいのであれば、それは自分の魂がキリストとつながり、このお方により頼み、世と世の愚かさや魅力から切り離されていることによる。わたしたちの側で、天の知的存在者と霊的な協力がなければならない。」（教会への証 6巻 147, 148）

## 個人的な復習問題

1. 十字架はわたしの生涯とどのように関係がありますか。
2. わたしの祈りの真剣さは、なぜ救いにとってそれほど重要不可欠なのですか。
3. 誘惑に直面して、何が人を倒れさせる原因となりますか。
4. なぜ誤ったヤコブが神によって受け入れられながら、エサウは拒まれたのかを説明しなさい。
5. 勝利のために奮闘するときに、心にとめているべき約束をいくつか暗唱しなさい。

## 現代の真理のうちに強められる

暗唱聖句：「それだから、あなたがたは既にこれらのことを知っており、また、いま持っている真理に堅く立ってはいるが、わたしは、これらのことをいつも、あなたがたに思い起させたいのである。」（ペテロの第二の手紙 1:12）

「わたしたちには、今日持っている教理が現代の真理であること、そしてわたしたちが裁きに近づいていることに疑いはなく、何年も疑ったことはなかった。わたしたちは、聖天使の一行に伴われて、忠実で正しい者に不死の最終的な一触れを与えるために天の雲に乗って表れようとしているお方に会うための準備をしている。」（教会への証 2 巻 355）

推奨文献： 初代文集 135-150

日曜日

8月4日

### 1. ここで今、成長する

#### a. 使徒パウロは信徒たちに何を強調しましたか（ペテロの第二の手紙 1:12-15）。

「ルターの時代には、現代の真理、すなわち、その時代において特別重要な真理があった。今日の教会のためにも現代の真理がある。みこころのままに万事を行なわれる神は、人々をさまざまな事情のもとにおいて、その時代、また、彼らがおかれた状態に応じた特殊な任務をお命じになる。もし彼らが、与えられた光を尊重するならば、真理に対するいっそう明らかな理解が与えられる。」（各時代の大争闘上巻 168, 169）

#### b. わたしたちは天からの光の理解において、どのように成長するかを説明しなさい（ヘブル人への手紙 5:12-14; 6:1-3）。

「信仰と服従は、一步ごとに、『少しの暗いところもない』世の光に、魂を密接に結びつける。」（各時代の大争闘下巻 205）

## 2. 責任

- a. わたしたちが天から送られた光をさらに受けたとき、なぜ、またどのように自分たちの一連の行為を変更する必要があるのですか（ヤコブの手紙 4:17; 箴言 4:18; マタイによる福音書 6:23）。

「神はご自分の民に与えられた恵みと真理に従って要求なさる。このお方の義なるご要求はみな、完全に応じなければならない。責任のある存在は自分の上に照らす光のうちに歩まなければならない。もし彼らがこうしないなら、彼らの光は闇となり、彼らの闇は、彼らの光が豊かであった分に比例して大きくなる。積み重なる光が神の民を照らしてきた。しかし多くの人々は光に従うことをなおざりにした。そしてこれが理由で、彼らは霊的に大変弱い状態にあるのである。

神の民が今滅びつつあるのは、知識の欠乏によってではない。彼らは道、真理、命を知らなかったから責められるのではない。彼らの理解力に届いていた真理、魂の上に輝いていたが、なおざりにされ、拒まれてきた光が、彼らを責めるのである。拒む光を持ったことがない人々が、刑の宣告のうちにはいない。神のぶどう畑のために今までなされたことのほかに、何をもっとなすことができたであろうか。光、尊い光が、神の民の上に輝いている。しかし、それによって救われることに同意し、完全にそれに従って生き、その光を闇の中にいる他の人々に伝えないかぎり、それが彼らを救うことはない。神はご自分の民に行動するよう求めておられる。必要とされているのは、罪を告白し、それを捨てて、主に帰るといふ個人個人の働きである。他の人が代わって行うことはできない。宗教的な知識は積み重なってきた。そしてそれに伴い義務も増してきた。大きな光が教会を照らしており、その光のうちに歩まないがゆえに、彼らはその光によって有罪を宣告されている。もし彼らが盲目であるなら、罪はなかったであろう。しかし、彼らは光を見てきた、大いに真理を聞いてきたが、賢明でも聖なるものでもない。多くの人々は知識と真の聖潔において何の進展もなかった。彼らは霊的な小人である。完全に向かつて前進する代わりに、彼らは闇とエジプトのくびきに向かつて後退している。彼らの思いは、信心と真の聖潔へと働かされていない。

神のイスラエルは目覚めるであろうか。信心を公言するすべての人は、すべての悪を捨て去り、神にひそかな罪をすべて告白し、神のみ前に魂を悩ませるであろうか。彼らは大いなるへりくだりを持って、すべての行為の動機を調べ、神の御目がすべてを読まれることを読み、すべての隠れた事がらを探り出されることを知るであろうか。働きは徹底的に、献身はあますことがないようにしなさい。このお方はわたしたちの持っているもの、わたしたち自身をみな完全に明け渡すように求めておられる。牧師も民も新しい改心、思いの変化を必要としている。それがなければ、わたしたちは命から命へいたる香りではなく、死から死に至る香りなのである。」（教会への証 2 巻 123, 124）

### 3. 現代の真理

- a. わたしたちが注意をそらされてはならない研究の焦点となるべき主題の例をあげなさい (ダニエル書 7:9, 10; 8:14; 詩篇 119:33-35)。

「神の言葉の中には尊い真理が多く含まれている。しかし、群れが今必要としているのは『現代の真理』である。わたしは、使命者たちが、現代の真理の重要点を離れて、群れを一致させ魂を清めるのになんの役にもたない問題を長々と話す危険を見た。サタンは彼らに義務を果たさせまいとして、多くの障害物をおくことだろう。

2300 日に関連した聖所問題、また神の律法とイエスの信仰などの問題は、過去の再臨運動を説明して、われわれの現在の立場を示し、疑う者の信仰を確立し、輝かしい将来に対する確信を与えるように十分に計画されたものである。わたしはしばしばこれらが、使命者たちが詳しく話すべき重要な問題であることを見た。」(初代文集 137, 138)

- b. およそ 180 年間 (世界歴史という全体的な範囲において比較的最近)、何が現代の真理の重要不可欠な一面でしたか (ヨハネの黙示録 14:6-13)。

「第一、第二、第三天使のメッセージの宣布は、靈感の言葉によって位置づけられてきた。一つの留めくぎも留め針も取り除かれてはならない。新約聖書が旧約聖書の代わりになることができないのと同じように、どの人間の権威もこれらのメッセージの位置を変える権利は与えられていない。旧約聖書は比喩と象徴における福音である。新約聖書は実体である。一方はもう一方と同様に重要不可欠である。旧約聖書はキリストの唇からの教訓を提示している。そしてこれらの教訓はどの具体的な点においてもその効力を失っていない。第一と第二のメッセージは 1843 年と 1844 年に与えられた。そしてわたしたちは今、第三の宣布の下にいる。しかしこれらの三つのメッセージみな、今も宣布されなければならない。それは今も今までと同様に重要不可欠であり、真理を求めている人々に対してくり返されるのである。筆舌によって宣布を鳴り響かせ、その秩序と預言の適用を示し、第三天使のメッセージにまで至らせることを示さなければならない。第一と第二のない第三はあり得ない。これらのメッセージを、出版物や説教で伝え、起こってきたこととこれから起こることの預言的な歴史の筋を示さなければならない。」(著者と編集者への勧告 26, 27)



#### 4. 成長することを切望する

- a. 現代の真理が開かれるときに、他の人々が拒んでも、それを受け入れることができるようにする態度を述べなさい（エレミヤ書 29:13; マタイによる福音書 18:3; ヨハネによる福音書 7:17）。

「あなたが幼子のように、導かれることを喜び、あなたの理解力が聖化されて、あなたの意志と偏見が明け渡される時、あなたの心の中に広く光が注がれて、聖書を照らし、あなたに現代の真理をその美しい調和のうちに示す。それは黄金の鎖のように、完全な全体の中に輪と輪がつながって現れる。」（教会への証 3 巻 448）

- b. 怠慢はしばしばどのように現代の真理の効果を弱めますか。治療法は何ですか（イザヤ書 56:9, 10; コリント人への第一の手紙 14:8; ヨハネの黙示録 3:17-19）。

「わたしたちは第三天使のメッセージをあまりにも不明瞭なやり方で伝え、人々に印象を与えない危険性がある。あまりにも多く他の関心が持ち込まれ、力をもって宣布されるべきメッセージそのものが単調で声のないものになっている。」（同上 6 巻 60）

「わたしたちはたしかにこの地上歴史が閉じようとしている時代に生きている。わたしたちはもしこの時代に重要不可欠な霊的成長を経験したければ、多くの時間を霊的な利益のために捧げる必要がある。断固とした改革をしなければならない。み声は次のように告げている。見張人は目覚めて、たしかなラッパの音を出す必要がある。朝が来る。そして夜が来る。起きよ、わが見張人たちよ、真理を提示するのが聞かれているべき声が静かになっている。魂はその罪の中で滅びつつある。そして牧師や医者や教師たちが眠っている。見張人たちよ、起きよ！」（パンフィック・ユニオン・レコーダー 1908 年 2 月 20 日）

「まことの証人は、自分が実に繁栄の良い状態にあると考える時に、あなたがすべてのものを必要としていると宣言している。牧師が理論的な主題を提示するだけでは十分ではない。彼らはまた実際の主題についても提示すべきである。彼らはキリストがご自分の弟子たちにお与えになった実際の教訓を研究し、その同じ教訓を自分自身と民に厳密に当てはめる必要がある。キリストがこの譴責の証を担われたがゆえに、わたしたちはこのお方がご自分の民への愛に欠けているのであろうか。ああ、まったく違う！人を死から贖うために死なれたお方は、神の愛を持って愛しておられる。そしてこのお方は愛する者を譴責なさるのである。」（教会への証 3 巻 257, 258）

## 5. 栄光をもって地が明るくされる

- a. 現代の真理は、イエスがこの地上に戻られる前に、どのように広められ、加速するかを述べなさい（ヨハネの黙示録 18:1-5）。

「〔黙示録 18:1, 2, 4 引用〕。この聖句は、黙示録 14 章 8 節の第二天使によってなされたバビロンは倒れたという宣言が、繰り返して行われる時を指し示すものであり、それと共に、このメッセージが 1844 年の夏最初に宣言されて以来、バビロンを構成する諸団体に入り込んできた腐敗について述べている。」（各時代の大争闘下巻 371, 372）

- b. いかに世のほとんどの人が現代の真理のメッセージを不都合だとみなすかに照らして、わたしたちはどのようにふるまうべきですか（コリント人への第一の手紙 2:12-16）。

「個人個人の経験において、わたしたちは神に教えられなければならない。わたしたちがまごころからこのお方を求めるとき、このお方に自分の品性の欠点を告白する。そのときこのお方はへりくだってより頼み、ご自分に来る者をみな受け入れると約束された。神のご要求に従う人は、キリストの永続的なご臨在を得る。そしてこの交わりが彼にとって非常に尊いものとなる。神の知恵をつかみながら、彼は欲によって世にある堕落をまぬかれるようになる。」（牧師への証 483）

「あなたがキリストの許へ来る時に、『わたしはきよい』と誇らしげに語ることはない。神だけに、あなたのことについて語っていただきなさい。なぜなら、あなたは自分自身の心を知らないからである。この誇りはたしかにあなたが聖書も神の力も知らない証拠である。もし神のみこころであれば、あなたがこのお方の従順な子であり、快活な心でご自分の定めを守っていると神の書物の中に、神に記していただきなさい。そしてその記録は、報いの日に、御使たちや人々の前で明らかにされるであろう。」（サイン・オブ・ザ・タイムズ 1887 年 12 月 22 日）

## 個人的な復習問題

1. 今日、現代の真理はどのように過去の時と違いますか。
2. 現代の真理を生きることに、わたしはどのように神に対して責任がありますか。
3. なぜわたしは必ず現代の真理を他の人々にわからあうべきなのですか。
4. より明るい光に対するわたしの態度は、どのようにわたしの霊的な成長に影響を与えますか。
5. 反対に直面した時、わたしの決然とした行動方針は、何であるべきですか。

## わたしたちの益となる預言

暗唱聖句：「こうして、預言の言葉は、わたしたちにいつそう確実なものになった。あなたがたも、夜が明け、明星がのぼって、あなたがたの心の中を照らすまで、この預言の言葉を暗やみに輝くともしびとして、それに目をとめているがよい。」(ペテロの第二の手紙 1:19)

「第三天使のメッセージを受け入れるにあたり、わたしたちは作り話ではなく、『確実な預言の言葉』に注意を払ってきたのである。わたしたちは今、聖書の真理の光の満ちみちた輝きの中に生存している。」(教会への証 4巻 592)

推奨文献： セレクトド・メッセージ 1巻 15-23

日曜日

8月11日

### 1. 作り話ではなく、信仰

a. ペテロはイエス・キリストの神性を、なぜ断言することができたのですか(マタイによる福音書 17:1-7)。

「山の上で、キリストを王とし、モーセをよみがえった聖徒たちの代表者とし、エリヤを天に移された人たちの代表者として、未来の栄光の王が縮図で示されたのであった。

弟子たちはまだその光景を理解していないが、しかし彼らは、柔和で心のへりくだったおかたであり、無力な旅人としてあちらこちらを歩きまわられた忍耐強い教師であられるイエスが、天の愛された者たちからあがめられたことをよろこぶ。」(各時代の希望中巻 193, 194)

「山の中でまる一晚が過ぎた。太陽がのぼると、イエスは弟子たちと平地へくだって行かれた。弟子たちは、もの思いにふけり、おそれ多い思いでだまっていた。ペテロでさえ、一言もしゃべらなかつた。」(各時代の希望中巻 197)

b. ペテロは、確信をもって何を宣言することができましたか。またどのようにわたしたちは信仰によって彼の勇気ある模範をこだませるべきなのか(ペテロの第二の手紙 1:16-18)。

「真理に偽りはない。もしわたしたちがずるがしくこく考案された作り話に従うなら、神とキリストに敵対して敵の勢力と結合するのである。…

あらゆるかたちで悪がわたしたちを攻撃しようと機会をうかがっている。へつらい、わいろ、ほのめかし、すばらしく高められる約束が、もっともきめ細やかに用いられるであろう。

この敵に対して『主はこう言われる』という防壁を立ち上げるために、神の僕たちは何をしているであろうか。」(セレクトド・メッセージ 1巻 194)

## 2. 預言の効果

- a. 混乱があふれている時に、わたしたちはキリストがエマオへの道中で失望している弟子たちに希望をもたらされた方法に示されているように、何を感謝することができますか（ルカによる福音書 24:15-21, 27, 32; ペテロの第二の手紙 1:19）。

「〔エマオ途上の〕弟子たちの心は感動した。信仰が燃えた。イエスがご自分を彼らに現わされる前から、彼らは、『新たに生れさせ』られ、『生ける望みをいだけせ』られた。彼らの理解を明らかにし、『確実な預言の言葉』の上に信仰を確立させることが、イエスの目的であった。彼は、真理が、単にそれが彼ご自身のあかしによって裏付けられたからだけでなく、型としての律法の象徴と影、そして旧約の預言によって提示されたところの、疑う余地のない証拠のゆえに、彼らの心にしつかりと根をおろすよう望まれた。キリストの弟子たちは、自分たちのためばかりでなく、キリストに関する知識を世界に伝えるためにも、正しい理解に基づいた信仰を持たねばならなかった。イエスは、この知識を分け与える第一歩として、『モーセやすべての預言者』を弟子たちに示された。旧約聖書の価値と重要性について、復活の救い主がお与えになったのは、このような証言であった。」（各時代の争闘下巻 42, 43）

「イエス・キリストを通してこの大いなる救いにあずかる者となった人々が、ご自分の伝道者になるというのが、〔神の〕ご計画である。…民は来たるべき裁きのために準備するよう警告されなければならない。作り話ばかりを聞いてきた人々に、神は暗やみに輝くともしびとして、それに目をとめていることができるたしかな預言の言葉を聞く機会をお与えになるであろう。このお方は真理の確かな言葉を、注意を払うすべての人の理解力に提示なさるであろう。すべての人が真理を、神の言葉を理解し闇の中にいる人々に教える資格を持っていると主張する人々によって提示されてきた作り話と対比することができるためである。」（教会への証 2 巻 631, 632）

- b. パウロがテモテにあてた、今日大いに関係のある警告をあげなさい（テモテへの第一の手紙 6:20, 21）。

「異教の偶像礼拝の精神そのものが、今日、はびこっている。科学と教育という感化の下にありながら、それはもつと精練され、魅力的な形態をとっている。毎日、預言の確かな言葉を信じる信仰が急速に減じ、その代わりに迷信や悪魔的な魔術が人々の思いをとらえているという悲しい証拠が加えられている。」（同上 5 巻 192）

### 3. わたしたちの魂にとっての錨

- a. わたしたちはどのように本物の預言を錨、クリスチャン信仰の基礎的な柱として識別することができますか (アモス書 3:7; ペテロの第二の手紙 1:20, 21)。

「多くの人が、非常に多くの人が、聖書の真実性と真理に疑問を呈している。人間の理論と人間の心の想像力が、神のみ言葉の靈感をひそかに傷つけている。そして認可されたものとして受け入れられるべきものが、神秘主義の雲に覆われている。何一つ岩の根底の上にはっきりと明確な輪郭をもって建てられていない。これが終わりの時代の顕著なしるしの一つである。」(セクレット・メッセージ 1巻 15)

「創始者でありたいと奮闘する人、記されたものよりも賢い者がいる。そのために彼らの知恵は愚かさなのである。彼らは先にすばらしいものを、すなわち彼らが神の神聖なみ旨やご目的の理解においてはるかに後れを取っていることを明らかにする考えを発見する。死すべき人間から各時代を越えて隠されてきた奥義を明白に、あるいは解こうとして、彼らは泥の中でもがき、自ら出られなくなりながら、なお他の人々に自分たちが浸かっている泥の海から抜け出す方法を教えている人のようである。これは聖書の過ちを正すものとして自らを定めている人を描写するのにぴったりである。だれ一人、主がなんとと言われたか、あるいはなんとと言われるはずであったかを示唆することによって、聖書を改良することはできない。

ある人はわたしたちを厳かに眺めて次のように言う、『あなたがたが転写者や翻訳者が何らかの間違いをおかしたかもしれないとは考えないのですか』。これはみなもってもらしい。そして、頭脳が限られているためにためらい、この可能性やあの確率につまずく人は、同様に靈感を受けたみ言葉の奥義にもすぐにつまずく。なぜなら、彼らの弱い頭脳は神のご目的を見通すことができないからである。」(同上 16)

「主は不完全な言葉で人間に語っておられる。それは地上の存在の墮落した感覚、鈍く、地上の知覚力が神の言葉を把握できるためである。このように神のへりくだりが示されている。このお方は墮落した人類のいるところで応じて下さるのである。聖書はその単純さにあって完全で、神の偉大なお考えに答えない。なぜなら、無限のお考えは有限の思想の媒体において完全に具現化できないからである。聖書の表現は、多くの人が考えるように誇張されているのではなく、強い表現は、著者がより高い教育の真理を伝えるためにもっとも表現に富む言葉を選んでいにもかかわらず、思想の大きさの前に破綻しているのである。」(同上 22)

「人間が神のみ言葉をあえて批判しようとするとき、彼らはあえて神聖な聖地に乗り出しているのであり、震えおののき、自分の知恵を愚かさとして隠すほうがよい。神はだれひとりご自分のみ言葉の上に、あるものは靈感を受けたものとして選び、他は靈感を受けていないと信用を落とす裁きを宣告するよう定めてはおられない。」(同上 23)



## 4. 神の子らのための神の備え

- a. 今日一般的にみられる悲惨な状況を述べなさい。そして、わたしたちはそれにどう直面すべきですか(ペテロの第二の手紙 2:1-3; テモテへの第一の手紙 4:1, 2; 申命記 6:24, 25)。

「かつて真理がこの終わりの時代ほど、人間のゆがんだ論争を通して、誤表され、矮小化され、評価を落とされていることによって損害を被っている時は、決して、決してなかった。人々は自ら、民のための託宣として表している雑多な異端の塊の中に入り込んでいる。民は、ある奇妙な新しいものに魅了され、人間が何ものかであるかのように形作った考えの性質を見極めるほど経験において賢明ではない。しかし、それを何か大きな重要性のあるものと称し、それを神の託宣と結びつけることが、それを真理とするのではない。…

わたしたちは神の明らかにされたみ言葉、預言の確かな言葉から神のみ声を聞かなければならない。自らを大いなるものとし、何か驚くべきことをしようとする人々は正気になるほうが良い。」(SDA バイブル・コメント [E・G・ホト・コメント] 6 巻 1064, 1065)

「神の律法はあらゆる永続的な改革の基礎である。わたしたちは世に対して、はっきりとした輪郭のうちにこの律法に従う必要を提示しなければならない。神の律法への従順は、産業、経済、真実さ、そして人と人との間の公正な取り扱いにとって、最大の動機である。…

勤勉に主のみ声に耳を傾け、このお方の戒めを快活に守る人々は、神を見る人々のうちに数えられるであろう。」(教会への証 8 巻 199)

- b. ペテロは神を愛しおそれる人々のための神の恵み深い救出の必要—と確かさ—を示すために、聖書のどの例を引用しましたか (ペテロの第二の手紙 2:4-8)。

「こうして神の民は、暗黒の君の欺瞞の力と絶え間ない悪意にさらされ、悪のあらゆる勢力と戦うときにも、天使たちのたえざる保護が保証されている。必要がなければ、このような保証は与えられはしない。神がご自分の子供たちに、恵みと保護の約束をお与えになったということは、当面すべき強力な悪の勢力—無数の、断固たる、疲れを知らぬ勢力であって、その悪意と力について無知であったり無関心でいては、だれひとり安全ではありえない—があるからである。」(各時代の大争闘下巻 253, 254)

## 5. わたしたちの救出者を大切にす

- a. 神がわたしたちに提供しておられるもっとも価値ある救出は何ですか（ペテロの第二の手紙 2:9（上句）；コリント人への第一の手紙 10:13；詩篇 50:15）。

「神は服従の道を歩む者はだれでも守ってくださるが、その道から離れることはあえてサタン側の側にはいっていくことである。そこではわれわれは必ずつまずいてしまうのである。救い主は『誘惑に陥らないように、目をさまして祈っていなさい』とお命じになった（マルコ 14:38）。瞑想と祈りとは、われわれが自分から危険の道にとびこまないようにする。こうしてわれわれは多くの敗北から救われるのである。

しかし試みに攻められても、勇気を失ってはならない。困難な立場におかれると、われわれは神のみたまがみちびいておられるのだろうかかと疑うことがたびたびある。だがサタンの試みを受けるためにイエスを荒野にみちびいたのは神のみたまであった。神がわれわれを試みに会わせられるとき、神はわれわれの益のために達成すべきある目的を持っておられる。イエスは神の約束につけあがって自分から試みの中にとびこんだり、あるいは試みがやってきたとき落胆してあきらめたりされなかった。われわれもまたそうでなければならない。」（各時代の希望上巻 141, 142）

「誘惑は罪ではない。イエスは聖く、純潔であられた。しかしなお、このお方はあらゆる点においてわたしたちと同じように誘惑にあわれた。しかし、人が決して要求されることのないものに、強さと力をもって耐えられた。このお方の成功した抵抗によって、わたしたちのために輝かしい模範を残された。それはわたしたちがご自分の御足のあとに従うためである。もしわたしたちが自信を持ったり、自己を義としたりしたら、誘惑の力の下に倒れるがままであろう。しかしもしイエスをながめ、このお方に信頼するなら、わたしたちは援助のために、戦場において敵に勝利した力を求めるのである。そしてすべての誘惑において、このお方は逃れの道をつくって下さる。サタンが洪水のようにやってくる時、わたしたちは御霊の剣をもって彼の誘惑に立ち向かわなければならない。そうすればイエスがわたしたちの助け手となり、わたしたちのためにサタンに対して旗印を掲げて下さる。偽りの父は神の真理が、燃える力をもって自分の顔面に投げつけられるとき、震えおののく。」（教会への証 5 巻 426）

## 個人的な復習問題

1. 聖書の預言を理解することは、来たるべき時代にわたしをどのように助けますか。
2. イエスはなぜエマオへ行くときに弟子たちに預言を伝えたのですか。
3. どのような方法で、サタンは聖書に対するわたしの信頼をひそかに傷つけようとしますか。
4. なぜ靈感の言葉にしっかりとすがりついていることがそれほど重要なのですか。
5. 誘惑に攻撃される時、どの行動をとることを覚えているべきですか。

## 墮落した時代における純潔

暗唱聖句：「きよい人には、すべてのものがきよい。しかし、汚れている不信仰な人には、きよいものは一つもなく、その知性も良心も汚れてしまっている。」(テスへの手紙 1:15)

「用心深く、慎みを持ち、なれなれしくすることも、不当な愛着を受けることもなく、高い道徳的気風と適宜に威厳を保つことによって、多くの悪が避けられるであろう。」(アドベンチストホーム 372)

推奨文献： 教会への証 5 巻 137-148, 191-199

日曜日

8月18日

### 1. わたしたちの態度を見張る

- a. 神はどのようにモーセの姉を妬みのために罰しましたか。また、どのようにこのことは今日も警告ですか(民数記 12:1, 2, 6-10; ヤコブの手紙 4:11; ペテロの第二の手紙 2:9 (下句), 10)。

「もしも、ミリアムのねたみと不安とが著しく譴責されないまましていると、さらに大きな害毒を及ぼしたことであろう。ねたみは人の心の中の最も悪魔的な性質の一つであって、最も恐ろしい結果を生じるものである。賢者は言っている。『憤りはむごく、怒りははげしい、しかしねたみの前には、だれが立ちえよう』(箴言 27:4) 初めに天で不和を起こしたのは、ねたみであった。そして、ねたみのゆえに人々の間で数えきれない害がもたらされた。『ねたみと党派心のあるところには、混乱とあらゆる忌むべき行為とがある』(ヤコブ 3:16)

人のことを悪く言ったり、他の人の動機や行為をさばくことは、小さいことであると思ってはならない。『兄弟の悪口を言ったり、自分の兄弟をさばいたりする者は、律法をそしり、律法をさばくやからである。もしあなたが律法をさばくなら、律法の実行者ではなくて、その審判者なのである』(同 4:11) 審判者は、ただひとりだけである。……そして、だれでも同胞をさばいて罪に定める者は、創造者の権威を侵害しているのである。

聖書は、神がご自分の使者として行動するように召された人々を、軽々しく非難することがないように特に教えている。」(人類のあけぼの上巻 461, 462)

## 2. 傲慢な厚かましき

- a. 神は自分の欲のうちに誇る傲慢な人に対して、特に彼らのご自分の民の中に忍び込もうとしているとき、どのように警告しておられますか（ペテロの第二の手紙 2:11-13）。

「サタンの魅了する力が人を支配するとき、神が忘れられる。そして墮落した目的でいっぱいになっている人がほめそやされる。秘められた放蕩がこれらの欺かれた人々によって徳として実行される。これが魔術の一種である。使徒がガラテヤ人に向けた質問を尋ねるがよい。『十字架につけられたイエス・キリストが、あなたがたの目の前に描き出されたのに、いったい、だれがあなたがたを惑わしたのか。』異端や放蕩にはいつも惑わす力がある。思いはあまりにも惑わされ、知的に筋道を立てて考えられないので、幻想が絶えず思いを純潔から導きそらせる。霊的な視力がくもり始め、それまで道徳的に汚されていなかった人が光の使者だと公言するサタンの代理人たちの欺瞞的な詭弁の下で混乱する。これらの代理人に力を与えるのはこの惑わしである。彼らが大胆に出てきて、自分たちの先進的なことを公にするなら、彼らは一瞬のためらいもなく撃退されることであろう。しかし、彼らの働きはまず同情を得て、彼らが聖なる自己犠牲的な神の人としての信頼を得ることである。神の特別な使者として、彼らは神の律法を無効にしようとすることによって、魂をまっすぐな道から迷い出させる巧妙な働きを始めるのである。」（教会への証 5 巻 142, 143）

- b. もしそのような危険に直面したら、わたしたちは何に焦点をあてるべきですか（イザヤ書 51:7, 8; テトスへの手紙 1:15）。

「わたしたちの敵である悪魔がほえたけるしのように食い尽くすべきものを探してあるきまわっているこの墮落の時代に、わたしは自分の声を警告のうちにあげる必要性を見る。『誘惑に陥らないように、目を覚まして祈っていなさい』。輝かしいタラントを持ち、それらをサタンの奉仕に捧げている多くの人々がいる。わたしは世から出てきた、そしてその闇の働きを捨てたと公言する人々に何を警告できるであろうか。…彼らの多くは不純な思い、汚れた想像、清められていない願望、そして低俗な情欲をいだいている。神はそのような木が結ぶ実を憎んでおられる。純潔で聖なる御使たちはそのような者の一連の行動を嫌悪して見ている。その一方でサタンは大喜びしている。ああ、その男女が神の律法を犯すことによって得られるものを考えたなら!どんなまたいかなる状況下でも不法は神を辱めることであり、人にとってのろいである。わたしたちはどれほど美しい見せかけであっても、だれが犯した者であっても、不法をこのように見なさなければならない。」（同上 146）

### 3. より大きな光に対して責任がある

- a. 霊感、神の民を汚そうとする略奪者の運命を、どのように述べていますか（ペテロの第二の手紙 2:14; テモテへの第二の手紙 3:5-9）。

「放蕩のあとに続く不幸と墮落は計り知れない。世界はその住民の下に汚されている。彼らはほとんど悪の升目を満たしている。しかし最も重い報いをもたらすのは、信心という覆いのもとで行われる悪である。世の贖い主は、どれほど罪深いものであろうと、決して真の悔い改めを拒まれなかった。しかし、このお方はパリサイ人や偽善者に対しては、燃えるような非難を投げつけられた。あからさまな罪人の方が、この種の人々より希望がある。

『[真理に対する愛を受け入れなかった] このために、神は彼らが偽りを信じるように、迷わす力を送り、こうして、真理を信じないで不義を喜んでいたすべての人を、さばくのである。』この人とその人にだまされる人々は、真理を愛さず、不義を喜ぶのである。そして、放蕩や姦淫に、神に対してご不興となるものはないという幻想より強い幻想を彼らにもたらすことができるであろうか。聖書にはこれらの罪に対する数多くの警告が含まれている。」(教会への証 5 巻 144, 145)

「クリスチャンの大使として、わたしは現代の真理を信じると公言するあなたに、不純に近づくことは何であつてもただちに憤りを感じ、不純なほのめかしを呼吸する人々の社交は捨てるように嘆願する。これらの汚す罪をもつとも激しい憎しみをもって忌み嫌いなさい…

これらの汚す罪を実行する人々が世の中に着実に増えており、わたしたちの教会の中に入り込んでくるため、わたしはあなたがたに彼らに場所を与えてはならないと警告する。誘惑者に背を向けなさい。キリストに従うと公言していても、彼は人のかたちをしたサタンである。」(同上 146)

- b. より大きな光を持っていると公言する人々にとって特別な危険をあげなさい（ローマ人への手紙 2:21-23）。

「死すべき人間にゆだねられた最も厳粛なメッセージがこの民に委託されてきた。そして彼らはもしそのメッセージによって聖化されるならば、強力な感化力を持つことができる。彼らは永遠の真理という高められた土台の上に立ち、神のすべての戒めを守っていると公言している。そのため、もし彼らが罪にふけるなら、もし彼らが不品行や姦淫を犯すなら、彼らの犯罪はわたしがあげてきた種類の人々、すなわち神の律法が自分たちに拘束力を持っていることを認めない人々の犯罪よりも 10 倍も大きいのである。」(同上 2 巻 450, 451)



#### 4. わたしたちの大事にしてきた罪を捨てるべき時!

- a. わたしたちが頑固に罪深い習慣にふけるなら、だれに比較されますか。それはなぜですか (ペテロの第二の手紙 2:15, 16; 民数記 22:9, 12, 21, 27, 28; 31:16)。

「神の民のために今日、心のうちにクリスチャンらしくないどんな気質も生きることを許してはならないという厳粛な警告がある。助長される罪は習慣となる。そして繰り返すことによって強められ、それはまもなく支配的な感化力を発揮し、より高尚な力をみな従わせてしまう。バラムは不義の報酬を愛した。貪欲の罪、すなわち神が偶像礼拝と同列におかれたものを、彼は抵抗せず、勝利しなかった。サタンは彼の品性を低下させたこの一つの欠点を通して彼の完全な支配権を得た。」(SDA ハイブル・コメンタリ [E・G・ホフ・コメント] 1 卷 1116)

- b. 不注意なクリスチャンは、どの手段を通して、墮落へと誘い出されますか (ペテロの第二の手紙 2:17, 18; ローマ人への手紙 6:12; エペソ人への手紙 6:12)。

「高慢な心霊術者は、大いなる自由を主張する。そしてなめらかな華美な言葉で不注意な魂が、狭く細い道よりは、楽しみや罪深い放縱の広い道を選ぶように興味を引いて惑わす。心霊術者は神の律法の要求をくびきと呼ぶ。そしてそれらに従う人々は奴隷の恐れ of の生涯を送っているのだと言う。なめらかな言葉と美しい話で彼らは自分たちの自由を自慢し、義の衣で危険な異端を覆い隠そうとする。彼らはもっとも反逆的な犯罪を人類にとっての祝福として考えるようにさせるのである。

彼らは罪人の前に、肉の心の衝動に従い、神の律法、特に第七条を犯すための広い戸を開く。これらの空しい大いなるまじないの言葉を語る人々、罪のうちにある自分の自由を勝ち誇る人々は、自分たちがだましている人々に、表された神のみ旨に対する反逆という道で自由を楽しむと約束する。これらの惑わされた魂は、自ら完璧なサタンのくびきのうちにいるものであり、サタンの力によって支配されている。それでいながら、自分自身が選んできたのと同じ罪の道をたどろうとする人々には自由を約束するのである。

聖書は実にこのことにおいて成就している。すなわち盲人が盲人を導いている。なぜなら人がだれかに打ち負かされると、打ち負かした同じ人がくびきへ導き入れられているからである。これらの惑わされた魂は悪鬼の意志に従う最も絶望的な奴隷状態の下にある。彼らは闇の力と同盟を組み、悪鬼の意志に反対して進む力がまったくないのである。」(ビュー・アソッド・ヘルト 1875 年 4 月 15 日)

## 5. 譴責によって祝福を受ける

- a. わたしたちの持っている選択を説明しなさい（ペテロの第二の手紙 2:19; ローマ人への手紙 6:16, 19; 箴言 10:17）。

「キリストと親密に交わった数年間に、ヨハネはしばしば救い主から戒めと注意を受けた。そして彼はこうした叱責を受け入れた。聖なるかたのご品性が現されたとき、彼は自分の欠点を認め、その啓示によって謙遜にされた。毎日彼は自分の激しい気性とくらべて、イエスの柔和と寛容を見、謙遜と忍耐の教訓を聞いた。毎日彼の心はキリストに引きつけられ、ついには主に対する愛によって自己がかき消されていった。ヨハネが神のみ子の日常生活の中に力とやさしさ、威厳と柔和、強さと忍耐を見たとき、彼の心はただ、感嘆するばかりであった。彼は自分の憤慨しやすい、野心的な性質をキリストの形成する力にゆだねたので、天来の愛が彼のうちに働いて、品性を一変させたのである。

ヨハネの生涯において達成されたきよめと著しい対照を示して、仲間の弟子ユダの経験がある。……そして、しばしば救い主のことばを聞いているとき、彼に改心の気持ちがあられたのだが、彼は謙遜な心になり、罪を告白しようとしなかった。ユダは聖なる感化を拒んで、彼が愛を告白したはずの主の名を汚した。ヨハネは自分の欠点と真剣に戦ったが、ユダは良心を汚し、誘惑に負けて、悪の習慣を更にとっかかりと身につけてしまった。……

ヨハネとユダは、キリストの弟子だと告白した人たちを代表している。この二人の弟子は、同じようにキリストの模範を学び、それに従う機会を持っていた。二人ともイエスと密接に交わり、主の教えを聞く特権を与えられていた。二人はそれぞれ性格に大きな欠点があったがまた、二人とも、性格を変える聖なる恵みに接することができた。…一人が日ごとに自己に死に、罪に勝利して、真理によってきよめられていたのに、他方は、恵みの変える力を拒み、利己的な願いにふけり、サタンのとりにされた。」（患難から栄光へ下巻 260, 261）

## 個人的な復習問題

1. ミリアムは、どのようにらい病という恥辱から命が救われることができましたか。
2. 今日の社会はどのようにペテロの警告を、今のわたしたちにとって、非常に関係のあるものとしていますか。
3. 歪められた世界において、神の民はどのような方法で特有なものとなりますか。
4. わたしはどのようにしてのみ、バラムの運命を避けることができますか。
5. 誤っているヨハネと誤っているユダの間の態度における違いを説明しなさい。

## 天来の光を大切にする

暗唱聖句：「人が、なすべき善を知りながら行わなければ、それは彼にとって罪である。」(ヤコブの手紙 4:17)

「御使は言った、『もし光がもたらされ、そしてその光がわきに置かれたり、拒まれたりするならば、そのとき有罪宣告がもたらされ、神がまゆをひそめられる。しかし、光が来る前に、罪はない。なぜなら、彼らには拒むべき光がないからである。』」(教会への証 1巻 116)

推奨文献： 教会への証 2巻 695-711

日曜日

8月25日

### 1. 態度の問題

a. ペテロはどのように偽りの教師の運命を説明していますか (ペテロの第二の手紙 2:20)。

「こうしたにせ教師たちが教会に起こり、信仰のある兄弟たちの多くから正しいと思われるが、使徒は彼らをたとえて、『水のない井戸、突風に吹きはらわれる霧であって、彼らには暗やみが用意されている』と言った。『彼らの後の状態は初めよりも、もっと悪くなる。…ペテロは言った。』」(患難から栄光へ下巻 236)

b. 他の人々がわたしたちを見下げ、わたしたちの忍耐を試そうとするとき、どの時代を越えた言葉が、分別ある視野を保ち、賢明な選択をする助けとなりますか (伝道の書 7:8)。

「多くの人々はへつらいを受けることを愛し、油断なく軽視や無視を見張っている。かたくなな許さない精神がある。妬み、紛争、対抗心がある。…

あなたが一番になろうとして熱心に奮闘するあいだ、もし柔和でへりくだった精神をいだかないなら、あなたは神の恩寵においては最後となることを覚えていなさい。心の誇りは多くの人が成功できたはずのところで失敗する原因となっている。『誉れの前にへりくだりがある』。そして『精神における忍耐は、精神における誇りにまさる』。(教会への証 5巻 50)

## 2. いくつかの興味深い例証

- a. ペテロはわたしたちを目覚めさせるために、何に言及していますか (箴言 26:11; ペテロの第二の手紙 2:20-22)。

「世はその破滅のために熟しつつある。神はもうあとわずかしか罪人に耐えることがおできにならない。彼らは憐れみの混じらないこのお方の怒りのさかずきを飲みほさなければならない。…だれが主の側にいるか、だれがイエスに恥とされないかがわかるようになる。不信者の面前で良心的に自分たちの立場を取り、世のファッションを捨て、自己否定のキリストの生涯を模倣する道徳的な勇気がない人々は、このお方を恥としているのであり、このお方の模範を愛していないのである。」(教会への証 1巻 287)

- b. キリストはどのように同様に、へりくだってご自分に依存するつながりを維持するのに失敗することに対して警告しておられますか (ルカによる福音書 11:24-26)。

「飾られた家は、自己義の魂を象徴している。サタンはキリストによって追い出された。しかし、入る場所を探そうと期待して戻ってきた。彼は家が空で、掃き清められており、飾られているのを見出した。ただ自己義だけがそこに住んでいた。『そこでまた出て行って、自分以上に悪い他の七つの霊を引き連れてきて中にはいり、そこに住み込む。そうすると、その人の後の状態は初めよりもっと悪くなるのである』。

自己義はたしかにのろいであり、人間の飾りつけであって、サタンが自分の栄光のために用いる。魂を自己賞賛とへつらいで飾る人々は、最初のより悪い他の七つの霊のために道を備えているのである。真理を受け入れるそのときに、これらの魂は自らを欺く。彼らは自己義という基礎の上に建てている。会衆の祈りは、一連の儀式と共に神に捧げられるかもしれない。しかし、もしそれらが自己義のうちに捧げられるならば、それらによって神が誉をお受けになることはない。主は次のように宣言される、『わたしはあなたの義と、あなたのわぎを告げ示そう、しかしこれらはあなたを益しない。』彼らのあらゆる誇示、彼らの飾り付けられた習慣にもかかわらず、サタンは悪天使たちの軍隊と共におとずれて、欺瞞のうちに助けるために、魂の中に自分の場所を陣取る。使徒は次のように記している、『彼らが、主また救主なるイエス・キリストを知ることにより、この世の汚れからのがれた後、またそれに巻き込まれて征服されるならば、彼らの後の状態は初めよりも、もっと悪くなる。義の道を心得ていながら、自分に授けられた聖なる戒めにそむくよりは、むしろ義の道を知らなかつた方がよい。』(SDA パイブル・コメンタリー [E・G・ホワイト・コメント] 1巻, 5巻 1093)

### 3. 信仰にふみとどまり

- a. なぜわたしたちははっきりとキリストのうちに「ふみとどまる」ように命じられているのですか(コロサイ人への手紙 1:21-23)。

「暗黒の王国の支配にはいるためには、わざわざその国の奉仕をえらぶ必要はない。光の王国と同盟することをおこたりさえすればよいのである。もしわれわれが天の勢力と協力しなければ、サタンは心を占領してそこを永住の地とする。悪に対する唯一の防備は、キリストの義を信じる信仰によって、心のうちにキリストに内住していただくことである。神とのいのちのつながりをもたないかぎり、われわれは、利己主義、放縦、罪への誘惑などのけがれた影響に抵抗することは決してできない。われわれは、多くの悪い習慣をやめ、しばらくの間はサタンとのまじわりをたちきっているかも知れない。だが時々刻々に神に献身することによって、神とのいのちのつながりを持っているのでなければ、われわれは打ち負かされてしまう。キリストを個人的に知り、たえずキリストとまじわっていないければ、敵の思うままになり、ついには敵の命ずるとおりのことを行うようになる。」(各時代の希望中巻 41, 42)

- b. わたしたちがイエスを信じる信仰による義認を通して、理解しなければならない美しいバランスを説明しなさい(ローマ人への手紙 3:24-26; ヘブル人への手紙 6:4-6; 10:26, 27)。

「病人をいやし悪鬼を追い出されたおかたは、今日も同じに偉大なあがない主であられる。信仰は神のみことばによって生まれる。だから「わたしに来る者を決して拒みはしない」とのキリストの約束をしっかりとつかみなさい(ヨハネ 6:37)。「信じます。不信仰なわたしを、お助けください」と叫んで、イエスの足下に身をなげなさい(マルコ 9:24)。そうするかぎり、あなたは決して滅びることはない、決して。」(同上 202)

「罪人が律法を見るとき、自分の有罪が明白にされ、良心にまっすぐに刺さり、彼は有罪を宣告される。彼の唯一の慰めと希望はカルバリーの十字をながめるうちに見いだされる。彼が神をみ言葉どおりに信じ、思い切って約束にたよると、救済と平安がその魂におとずれる。彼は『主よ、あなたはご自分の御子の名のうちに、ご自分に来るものをみな救うと約束なさいました。わたしは失われた無力で希望のない魂です。主よ、救ってください。さもなければ、わたしは滅びます』。彼の信仰はキリストをつかみ、彼は神のみ前に義とされる。

しかし、神は義でありながら、キリストの功績を通して罪人を義とされることはおできになる一方で、だれ一人知っている罪を犯しながら、あるいは知っている義務をなおざりにしながら、キリストの義の衣で自分の魂をおおうことはできない。神は、義認が行われる前に、心の完全な明け渡しを要求しておられる。そして人が義認を得るためには、愛によって働かす魂をきよめる活動的な生きた信仰を通して、継続的な従順がなくてはならない。」(セレクトド・メッセージ 1巻 365, 366)

#### 4. 光に従って生きる

- a. 今のようにわたしたちは天からの光の豊かさをもって祝福されているので、もし自分の救いについて真剣であるなら、何を覚えておく必要がありますか（ヤコブの手紙 4:17）。

「人が健康の主題について語られるとき、彼らはしばしば『わたしたちは実行しているより多く知っている』と言う。彼らは自分たちが身体的に健康であることに関する一つ一つの光線に対して責任があること、また自分たちの一つ一つの習慣は神の調査に明らかであることを自覚していない。身体的な命は、場当たりの方法で取り扱われてはならない。存在のすべての内臓、すべての繊維は、有害な習慣から神聖に守られなければならない。」

（教会への証 6 卷 372）

- b. 改革が必要とされている現代の真理の多くの面において（健康はほんの一例である）、わたしたちの日々の決定の結果は、どれほど遠くにまで及びますか（ローマ人への手紙 14:21; エレミヤ書 13:20）。

「健康改革の主題は諸教会で提示されてきた。しかし、光は心から受け入れられてこなかった。男女の利己的で健康を破壊する放縦が、民を神の大いなる日のために準備させるべきメッセージの感化力を無効にしてきた。もし諸教会が強さを期待するなら、彼らは神が自分たちに与えて下さった真理に生きなければならない。もしわたしたちの教会員がこの主題における光を軽視するなら、彼らは霊的、また身体的両方の墮落においてたしかな結果を刈り取ることになる。そしてこれらの古い教会員たちの感化力は、新しく信仰に至った人々に徐々に感化を与えるようになる。主は今多くの魂が真理に入るように導く働きをしておられない。なぜなら改心したことがない教会員とかつては改心していたが背信した人々のゆえである。これらの献身していない教会員は新しい改心者にどんな感化を及ぼすことだろうか。彼らは神の民が担うべき神から与えられたメッセージの効果をなくしてしまうのではないだろうか。」（同上 370, 371）

- c. 天から送られた光を委ねられてきたすべての人に課されている重い責任を考えると、どの真剣な訴えがたった今わたしたちにまでこだまして来ますか（エレミヤ書 3:12, 13; 詩篇 32:5）。



## 5. 共に前進する

- a. この大変な時代に生きている神の教会のために、ふさわしい訴えをいくつか述べなさい（ヘブル人への手紙 5:13, 14; 6:1; ペリピ人への手紙 2:14, 15）。

「わたしたちの諸教会を通じて、再改心と奉仕への再献身がなければならない。わたしたちは将来における働き、またわたしたちが持っている集まりにおいて、一致しないであろうか。祈りのうちに神と格闘し、すべての心の中に聖霊が来て下さるように求めないであろうか。わたしたちのうちに表されるキリストのご臨在は、わたしたちの奉仕をこれほど弱く効果のないものにしてきた不信というらい病をいやす。わたしたちは神聖な命の息が吹き入れられる必要がある。わたしたちは主が光と恵みを世に送ることのできる通路となるべきである。背信者たちは改心させられなければならない。告白と悔い改めによって神のみ前に自分の高慢な心をへりくだらせて、自分たちの罪を捨て去らなければならない。霊的な力の洪水が、それを受け入れようと準備している人々の上に注ぎ出されるのである。」（教会への証 8 巻 46〔著者強調〕）

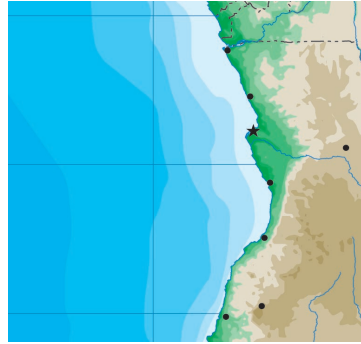
「あなたの働きが何であろうと、親愛なる兄弟姉妹がた、それを主人であるお方のためにやり、最善を尽くしなさい。現在の黄金の機会を見逃して、あなたが怠けて自分には決してふさわしくない神の働きにおける安逸と成功を夢見て座っている間に、あなたの生涯が失敗であることがわかるようなことがあってはならない。最も手近にある仕事をやりなさい。それが伝道地における危険と困難のさなかにあっても、それをやりなさい。しかし、あなたにお願いする、困難や自己犠牲をつぶやいてはならない。ワルデンセスを見なさい。福音の光が無知な思いの中に輝くように彼らが考案した計画を見てみなさい。わたしたちはこの世の生涯において報いを受けることを期待して働くべきではない。むしろ、競走の終わりにある賞与にわたしたちの目をしっかりと据えているべきである。今は南北を指す磁針のように義務に忠実な男女、自分の道がなめらかでなくとも、すべての障害が取り除かれなくても働く男女が求められている。」（文書伝道 68, 69）

## 個人的な復習問題

1. わたしはだれかが自分を正しく評価しないように見える時に、最悪を考えるでしょうか。
2. どのような方法でこの終わりの時代に自己義は自らをあらわしますか。
3. わたしはどのようにキリストの血を信じる信仰によって義認を得て、維持することができますか。
4. 生涯のどの分野において、わたしの行動はわたしが知っていることをもっとよく反映する必要がありますか。
5. つぶやくように誘惑されるとき、何を思い出さなければなりませんか。

## 第一安息日献金 アンゴラ・ユニオンの本部のために

SDARM 北東アンゴラ フィールドは、総会によって 2015 年に組織され、クワンザ ノース、ウイゲ、マランジェの 3 つの州に奉仕しています。マランジェは北中部アンゴラ フィールドの本部内にあります。この地域の面積は 181,110 km<sup>2</sup>、推定人口は 3,550,774 人です。SDARM は 1978 年にこの地域にやって来て、徐々に活動を開始しました。しかし、1990 年には神の恵みにより、この地域での活動が決定的に定着し、それ以来メッセージは途絶えていません。大きな進歩が遂げられ、現在の真理のメッセージはこの地域の近隣のいくつかの場所に届きました。



現在必要なのは、アンゴラ ユニオンの従業員用の作業室、図書館、会議用の講堂を備えたオフィス ビルです。

私たちは、アクセスしやすい郊外のエリアに土地を取得しました。このスペースに、この地域での神の神聖な活動を正しく表す、希望どおりの建物を建設できることを願っています。

わたしたちの前にある大いなる任務を考えると、わたしたちは活動の調整と計画を完全な秩序のうちにできる制度的組織が必要です。次のことを念頭に置いて

「神は昔と同じように今日も、教会の事柄を行うのに秩序と組織とを要求される。神はみわざに承認の印をおすことができるように、それが完璧に正確に進められることを望んでおられる。クリスチャンはクリスチャンと、教会は教会と一致し、人間の力が神の力と協力し、すべての働きが聖霊に従属し、神の恵みのよいおとずれを世に知らせるために、すべてのものが結合しなければならない。」(患難から栄光へ上巻 99)

救いのメッセージは全地に伝えられなければなりません。そしてわたしたちは主が「彼は衰えず、落胆せず、ついに道を地に確立する」ことは確実です。そして「海沿いの国々はその教を待ち望む」(イザヤ 42:4)。

このことにおいて、世界中のわたしたちの親愛なる兄弟姉妹がたに、さざげ物をこの事業に惜しみなく寄付して下さることによってわたしたちを支え、福音をアンゴラという広大な地域で魂に広めるのを助けて下さるようお願いいたします。主なる神様がみなさんを豊かに祝福してくださいますように。

北東アンゴラ・ユニオンの兄弟姉妹より

## わたしたちの思いを防備する

暗唱聖句「愛する者たちよ。わたしは今この第二の手紙をあなたがたに書きおくり、これらの手紙によって記憶を呼び起こし、あなたがたの純真な心を奮い立たせようとした。」(ペテロの第二の手紙 3:1)

「わたしたちは自分の祝福を数えなおすべきである。それらを集めて記憶の間に飾るべきである。今日、あなたはどのような種類の絵をかけるであろうか?」(ビュー・アンド・ヘルト 1889年3月26日)

推奨文献： 教会への証 5巻 671-691

日曜日

9月1日

### 1. 記憶の間への訴え

- a. どのように、またなぜペテロはわたしたちの記憶の力に訴えていますか(ペテロの第二の手紙 3:1)。

「男女は天の大君が人間の代わりに払われた大いなる犠牲の大きさをもっと十分に理解できるとき、そのとき救いの計画は大いなるものとなり、カルバリーの熟考はクリスチャンの心にやさしく聖なるそして生き生きとした感情を呼び覚ますであろう。神と小羊への賛美が彼らの心のうちにあり、彼らの唇にあるであろう。誇りと自己評価はカルバリーの光景を生き生きと記憶に保つ心の中に繁茂できない。人の贖いという大きな代価、すなわち神のいとし子の尊い血潮を正しく評価する人々にとって、この世はほとんど価値がないものに見える。この世のあらゆる富は一人の滅びる魂を贖うのに十分ではない。キリストが十字架にかかれた時に罪深い人間の罪のために苦しみながら、失われた世界のために感じられた愛を、だれがはかることができようか。この愛ははかり得ず、無限である。」(教会への証 2巻 212)

「ああ、もし誤って向けられている精力がことごとく一つの大きな目的—この世の生涯における神の恵みの豊かな備え—に捧げられるなら、わたしたちは記憶の間になんという感謝状を掲げて、神の憐れみと恩寵を物語ることができることであろう!…そのとき習慣はわたしたちと共にたずさえられて永続的な原則となり、霊的な宝を積み上げることであろう。ちょうど世俗的な大志を抱く人が地上の一時的なもののために労するように。」(わたしたちの高い召し 188)

## 2. わたしたちの記憶に何を蓄えるか

- a. わたしたちにとって覚えるべき最大優先事項は何であるべきですか。それはなぜですか（ペテロの第二の手紙 3:2; 詩篇 119:11）。

「試みがしばしば抵抗できないもののように見えるのは、祈りと聖書研究を怠っているために、試みられている者が神のみ約束をすぐに思い出すことができず、聖書という武器をもってサタンに抵抗することができないからである。しかし、天使たちは、神の事柄を喜んで学ぼうとする人々のまわりにおいて、緊急の場合には必要な真理を思い起させる。こうして、『敵が洪水のように押し寄せるときに、主の霊はそれに向かって旗をあげられる』（イザヤ 59:19 欽定訳）。

イエスは、『助け主、すなわち、父がわたしの名によってつかわされる聖霊は、あなたがたにすべてことを教え、またわたしが話しておいたことを、ことごとく思い起させるであろう』と弟子たちに約束された（ヨハネ 14:26）。しかし、危機の時に、神のみ霊がわれわれにキリストの教えを思い起させてくださるためには、それをあらかじめ心の中にたくわえておかねばならない。（各時代の争闘下巻 367）

- b. わたしたちの思いに聖書の歴史と教えを蓄えることが命にかかわるほど重要であることを強調しているいくつかの例をあげなさい（ルカによる福音書 1:67-70; 使徒行伝 3:20, 21）。

「聖書は、人類のもっている最も古いそして最も広範な歴史である。それは永遠の真理の泉から出た新鮮な流れで、各時代を通じて神のみ手によってその清純さが保たれたのである。それは、人間がどんなに研究しても見通すことのできない遠い過去を照らしている。地の基礎をすえ、天をのべた能力は、ただ神のみ言葉の中にしか見られない。諸国民の起源について信頼すべき記録は、ただ聖書の中のみ見いだされる。人間の自負心や偏見に汚されない人類歴史の記録は聖書の中にだけある。」（教育 205）

「わたしの思いは旧約の歴史に関する記述の問題に重荷を感じてきた。わたしは兄弟姉妹たちが日常生活にあまりにわずかな聖書の真理しか持ち込んでいないのを見て悩まされている。わたしたちが勝利者になるためには、戦うべき戦いがあることを悟らなければならない。神の恵みの強める力を通して確かに勝てることを知り、わたしたちは喜んでい。神は墮落した敵の全勢力よりも強い。」（聖書訓練学校 1903年6月1日）

### 3. 預言的なしるしが成就した

- a. 多くの人の信仰がふるわれるために、終わりの時代に何が起こりますか（ペテロの第二の手紙 3:3）。

「青年を教育する一般的な方法は、真の教育の標準に見合わない。教科書に掲載されている事がらに無神論者の言葉が織り込まれ、神の託宣は疑わしい、あるいは不愉快とさえいえる光の中に置かれている。こうして青年たちの思いはサタンのほめかしになじんでいき、一度いただいた疑いはそれらを抱いた人々にとって保証された事実となり、科学的な研究は、その発見が解釈されゆがめられる方法のゆえに、誤解を招くものとなる。人は有限な裁判の前で神のみ言葉を抑制するたずなを自ら握り、有限な測りにしたがって神の靈感に宣告を下し、神の真理が科学の記録の前に不確かなものとして現わされる。…彼らが疑っている人々を信じる信仰を吹き込むことができたならば、彼らは神のみ言葉か、もしくは誤って科学の発見と呼ばれているもののいずれが真実であるかに関して、自分自身の不確かさを認めることであろう。真に良心的な人々が、自分の信仰において揺さぶられてきた。なぜなら、聖書の解説者だと公言する人々が生きた託宣を扱うときにためらうからである。サタンは思いに確信がないことを有利に用いて、見えない代理人たちを通して、自分の詭弁でいっぱいにして、人を懐疑主義の霧の中に包み込むようにするのである。」（クリスチャン教育の基礎 328, 329）

- b. パウロは今日、これに関して、どの訓告をあてはめましたか（テモテへの第一の手紙 6:20）。

「性質の不滅に関しては大いに扱われてきた。そして疑惑の雰囲気を選ぶ気持ちのある人々によって、あやしげな理論がすぐに採用されてきた。なぜなら、彼らは神の聖なる律法、天地の神の統治の基礎と調和していなかったからである。彼らの生来の悪への傾向は、彼らが偽りの道を選ぶことを容易にし、新旧約両方の記録や歴史の信ぴょう性を疑わせた。自ら誤謬に毒されて、彼らは他の人々の思いに疑いの種を蒔くあらゆる機会を見張ってきた。自然が、自然の神よりも高められている。そして信仰の単純さが破壊されている。なぜなら、信仰の基礎が不確かに見えるようにされているからである。懐疑主義のうちに包み込まれ、疑う人々の思いは不信仰という岩に打ちつけられるがままなのである。」（同上 329, 330）

#### 4. 目標にされた靈感

- a. 聖書の権威を傷つけることのほかに、サタンの邪悪な攻撃はますます何に焦点をあてていますか (ヨハネの黙示録 12:17; 19:10)。

「証の書を信じる神の民の信仰を弱めようとするのがサタンの計画である。次に続くのが、わたしたちの信仰やわたしたちの立場の柱の命にかかわる重要な点に関する懐疑主義、それから聖書に関して疑うようになり、さらに滅びに向かって下降に進軍していく。証の書、すなわち、かつては信じられていたものが、疑われ、放棄されるようになると、サタンは欺かれて人々がそこで止まることはないことを知っている。そして彼は、公の反逆を彼らに開始させるまで、自分の努力を倍加するのである。それは治しようのないものとなり、破滅に終わる。」(教会への証 4 巻 211) [筆者強調]

「サタンが一番最後の欺瞞は、神の霊の証を効果のないものにするのである。『預言がなければ民はわがままにふるまう』(箴言 29:18)。サタンは天才的に、神の残りの民の真の証を信じる確信を揺るがすために、さまざまな方法でさまざまな代理人たちを通して働く。彼は偽物の幻を持ち込み、誤り導いて偽りを真理に混ぜる。こうして人々に幻という名に関わるすべてのものに関してうんざりさせるのである。しかし正直な魂は、偽りを真理と対比することによって、それらを識別できるようになる。」(信仰によってわたしは生きる 296)

- b. 第三天使のメッセージを信じると公言する人々が証の書を疑い始めると、何が起りますか。またしばしばなぜ彼らは疑うのですか (ヨハネによる福音書 3:19, 20)。

「わたしはあなたの危険を知っている。もしあなたが証に対する確信を失うなら、聖書の真理から漂い出ることになる。わたしは多くの人が疑問をはさみ、疑う立場を取ることを恐れてきた。そしてあなたの魂を思ってわたしは苦悩のうちに、警告する。どれほどの人が警告に注意を払うであろうか。あなたが今証の書を忠実に守るときに、与えられた一つがあなたの道をさえぎり、あなたの過ちを正すなら、一部もしくは全体を受け入れたり拒んだりするのはまったく自由だと感じるであろうか。あなたが最も受け入れる気がしないものが、最も必要とされているまさにその部分なのである。神とサタンは決して、協力して働かない。証の書は、神の印を受けているか、サタンの印を受けているかのいずれかである。良い木は悪い実を結ぶことができないし、悪い木が良い実を結ぶこともできない。その実によって、あなたは彼らを知るのである。神は語られた。だれがこのお方のみ言葉の前におののいてきたであろうか。」(教会への証 5 巻 98)



## 5. 今日のためのメッセージを蓄える

- a. なぜ神が預言の霊を通してご自分の民に送られた証に従うことが、特にこの終わりの時代に命にかかわるほど重要なのですか（箴言 29:18（上句）；ホセア書 12:13；歴代志下 20:20（下句）。

「主は過去数年間に担われた率直な証の復活を求めておられる。このお方は霊的な命の復活を求めておられる。神の民の霊的な精力は長い間、休眠してきた。しかし一見死と見えるところからの復活がなければならない。祈りと罪の告白によってわたしたちは王路を整えなければならない。こうするとき、御霊の力がわたしたちにもたらされる。わたしたちはペンテコステの精力を必要としている。それはもたらされる。なぜなら、主がすべてに勝利する力としてご自分の御霊をおくと約束されたからである。

危険な時代が目の前に迫っている。真理の知識を持っているすべての人は目覚めて、自らを、体と魂と霊とを神の訓練の下に置くべきである。敵はわたしたちの道にいる。わたしたちははっきりと目覚めて、あれに対して防御しなければならない。神の武具を全身につけなければならない。預言の霊を通して与えられている指示に従わなければならない。この時代のための真理を愛し、従わなければならない。これが強い惑わしを受け入れることから、わたしたちを救うのである。神はご自分のみ言葉を通してわたしたちに語ってこられた。このお方は教会への証を通して、またわたしたちの現在の義務と、わたしたちが今しめるべき立場とを明らかにする助けとなってきた書物を通して、わたしたちに語ってこられた。与えられてきた警告、規則に規則、教訓に教訓に注意を払うべきである。もしわたしたちがそれらをなおざりにするなら、どんな言い訳ができるだろう。

神のために労している人々に、本物の代わりに偽物を受け入れてはならないと嘆願する。人間の理性が、聖化する真理のあるべきところにとって代わることがないようにしなさい。キリストは信仰と愛をご自分の民の心に灯そうと待っておられる。永遠の真理と言う土台にしっかりと立っているべき民が、誤った理論に顔を向けることがないようにしよう。神は疑問の余地がない権威に基づいた基礎的な諸原則をしっかりとつかんでいるようにと、わたしたちに求めておられる。」（福音宣伝者 307, 308）

## 個人的な復習問題

1. わたしがずっと考えているどの記憶は、もっと良い記憶と取り換えられるべきですか。
2. わたしは次にくる避けられない大きな試練のために、どのように最善の準備ができますか。
3. わたしの教育のどの面が、わたしの信仰に反して作用してきましたか。
4. 魂の敵は、なぜ証の書の信用を落とそうと決心しているのですか。
5. なぜわたしはもっとそれらの研究のために、もっと質の高い時間と評価を捧げるべきなのですか。

## 目的にかなった追加時間

暗唱聖句：「ある人々がおそいと思っているように、主は約束の実行をおそくしておられるのではない。ただ、ひとりも滅びることがなく、すべての者が悔い改めに至ることを望み、あなたがたに対してながく忍耐しておられるのである。」（ペテロの第二の手紙 3:9）

「わたしたちがすべての贖われた人々と共に、金のたて琴と金の冠をもってガラスの海に立ち、目の前には永遠という無限があるとき、そのとき、わたしたちは待っていた恩恵期間がなんと短かったかを知るのである。」（教会への証 5 巻 485）

推奨文献： 教会への証 2 巻 183-199

日曜日

9月8日

### 1. わたしたちは何をみているか？

- a. あざける者はしばしば自分たちの疑いの原因を引用する。そしてこの態度はどれほど多くの主を待っている人々にさえ影響を及ぼしていることであろう。」（ペテロの第二の手紙 3:4; イザヤ書 56:12）

「世の愛があまりにもわたしたちの思想を占めているため、わたしたちの目は上を向かず、下の地上に向かっている。わたしたちは急ぎまわり、さまざまな事業において熱心に真剣に取り組んでいるが、神を忘れている。そして天の宝の価値が評価されていない。わたしたちは待ち、見張る立場にいない。世の愛と富の惑わしがわたしたちの信仰を覆い隠し、救い主の来臨を待ち望んでも愛してもいない。わたしたちはあまりにも自分自身を大事にしようと苦勞している。わたしたちは不安で神に信頼する堅固な信頼に大いに欠けている。多くの人が困窮するのではないかと恐れながら、心配して働き、考案して計画を立てる。彼らは自分自身の世話をするために祈ったり、宗教的な集会に出席するための時間をとることができないので、神に彼らの世話をする機会を与えない。そして主は彼らのために多くのことをなされない。なぜなら、神に機会を与えないからである。彼らはあまりにも自分自身のためにしすぎて、神を信じたり信頼したりすることがあまりに少ない。

世の愛は、主が突然来られて眠っているところを見られないように、つねに目を覚まして祈っていなさいと命じてこられた民を、おそろしいほど支配してきた。」（教会への証 2 巻 195, 196）

## 2. ついに…あるいはもうすぐに？

- a. 再臨信徒だと公言する人々の間でさえ、どのようにあざけりがありにもしばしば起こるかを説明しなさい（マタイによる福音書 24:48-51；箴言 26:20-22；ローマ人への手紙 1:29-32）。

「この悪いしもべは、『主人の帰りがおそい』と心の中で思っている。彼は、キリストがおいでにならないとは言わない。彼は主の再臨という考えを嘲笑しない。しかし心の中で、またその行為とことばによって、主の来臨が遅いと宣言する。彼は、ほかの人たちの心から、主はすみやかにこられるという確信を追い出す。彼の影響で、人々の間に独断的で不注意な遅れが生じる。人々の世俗心とまひ状態がますますひどくなる。世俗的な欲望、墮落した思いが心を占領する。悪いしもべは、酔っぱらいといっしょに飲み食いし、世の人々といっしょになって快楽を求める。彼は仲間のしもべたちを打ちたたいて、主人に忠実な者たちを責め、非難する。」（各時代希望下巻 103）

- b. わたしたちはキリストの来臨がはるか遠い先のことだと考えている人々と、どのように対照的であるべきですか（コロサイ人への手紙 3:1-4）。

「世俗の人々の注意がさまざまな事業に向いている一方で、わたしたちの注意は天に向けられているべきである。わたしたちの信仰は、はるかにさらにはるかに先の天の宝という栄光に満ちた神秘へと届き、天の聖所から尊く神聖な光線を引き出して、それらがイエスのみ顔に輝いているように、わたしたちの心の中を照らすようにすべきである。あざける者は待ち、見張っている人々をあざ笑ってたずねるであろう、『主の来臨の約束はどうなったのか。あなたは失望してきた、今わたしたちと一緒になろう。そうすれば、あなたは世俗の事がらに繁栄するであろう。利益を得よ、金銭を得よ、そうすれば世に尊ばれるであろう』。待っている人々は上を見あげて答える。『わたしたちは見張っている』。そして地上の娯楽や世俗の名声、また富の惑わしには背を向けて、彼らは自らその立場にいることを示すのである。見張ることによって、彼らは強くなる。彼らは怠惰と利己心と安逸を愛する心を克服する。苦悩の火が彼らに燃えつき、彼らの待つ時間は長く見える。彼らはときに悲しみ、信仰が揺らぐ。しかし、彼らは再び持ち直し、自分たちの恐れや疑いを克服する。そして彼らの目をまっすぐに天に向けながら、彼らの敵たちに、『わたしは見張っている。わたしはわが主の再臨を待っている。わたしは苦難において、苦悩において、困窮において誇ろう』と告げるのである。」（教会への証 2 巻 194, 195）

### 3. 自然の要素を用いた裁き

- a. 世界歴史において非常に重要などの出来事が、しばしば何気なく見過ごされていますか (創世記 6:5-8; 7:23; ペテロの第二の手紙 3:5, 6)。

「古い世界が洪水によって滅ぼされる前には、タラントをもった人々、技能や知識を持った人々がいた。しかし、彼らはその想像力が墮落していた。なぜなら、彼らの計画や会議では神が外されていたからである。彼らは神が一度も彼らにするようにお告げにならなかったことをなし、悪を行うのに賢かった。主はこの模範がその後にも生まれる者たちにとって害となることをご覧になった。そしてこのお方はこの問題をご自身で引き受けられた。120年の間、このお方は彼らにご自分の僕ノアを通して警告をお与えになった。しかし彼らはこれほど憐れみ深く与えられた恩恵期間を、ノアをあざけることに費やしてしまった。彼らは彼を風刺的にまね、彼を非難した。彼らは神が確かに成就すると宣言されたさばぎに関する彼の特別な熱心さと激しい感情のゆえに彼を笑った。彼らは科学について語り、自然を支配している法則について語った。そして彼らはノアの言葉をめぐって謝肉祭を催し、彼を狂信的な気持ちがひどいと呼んだ。神の忍耐は使い果たされた。」(SDA バイブル・コメント [E・G・ホイト・コメント] 1 巻 1090)

- b. この惑星には最終的に何が待ち受けていますか (ペテロの第二の手紙 3:7; 詩篇 11:6; 59:13)。

「地上の深部は主の兵器庫であり、そこからこのお方は古い世界を滅ぼすのに用いた武器を取り出された。地の深部にあった水が噴き出し、天からの水と一つになって、破壊の働きをなしとげた。洪水以降、神は地上において水と火の両方を、邪悪な都市を滅ぼすご自分の代理人として用いてこられた。」(霊的賜物 3 巻 82)

「偽りの父の働き全体は天の法令集に記録されており、自らをサタンの奉仕に貸し与え、教えと模範によってサタンの偽りをとり出して、人々に提示してきた者は自分たちの行いに従って受けるようになる。根も枝も終わりの時代の火によって滅ぼされる。サタン、背教の大将軍が根であり、彼のすべての働き人、すなわち神の律法に関してサタンの偽りを教える者が、枝である。」(SDA バイブル・コメント [E・G・ホイト・コメント] 4 巻 1184)

#### 4. すばらしい永遠の神

- a. 神の子らにご自分の約束と永遠の希望に対する信頼を与えるために、わたしたちの創造主の制限のない視野は、どのように要約されていますか（詩篇 90:4; ペテロの第二の手紙 3:8）。

「神がその民に約束された嗣業は、この世のものではない。アブラハムは、地上で何も持たず、『遺産となるものは何一つ、一步の幅の土地すらも、与えられなかった』（使徒行伝 7:5）。彼は、大きな財産を持っていたが彼はそれを、神の栄光と同胞の幸福のために用いた。しかし、彼は、この世を自分の故郷と思わなかった。主は永遠の所有として、カナンを国を与えることを約束して偶像礼拝者の親族から離れることを彼に命じられた。しかし、彼も、彼の子も、孫も約束の地を受けなかった。アブラハムは、死者を埋葬する地がほしかったとき、カナン人から買わなければならなかった。約束の地の彼の唯一の所有は、マクベラのほら穴の岩にほられた墓だけであった。

しかし、神の言葉にまちがいはなかった。ユダヤ人のカナン占領も、この約束の最後の成就ではなかった。『約束はアブラハムと彼の子孫とに対してなされたのである』（ガラテヤ 3:16）。アブラハム自身、嗣業相続にあずかるはずであった。神の約束の成就是、長く延びるように思われることであろう。『主にあつては、一日は千年のようであり、千年は一日のようである』（ペテロ第 2・3:8）。おくられているように見えても、定まった時が来れば『それは必ず臨む。滞りはしない。』（ハバクク 2:3）。」（人類のあけぼの上巻 178, 179）

- b. キリストの再臨に関して、何を悟らなければなりませんか（ペテロの第二の手紙 3:9; ナホム書 1:3）。

「神の忍耐は驚くばかりである。罪人に恵み深い訴えがなされている間に、神の義は…長く待っている。

世の人びとは、大胆に神の律法を犯すようになった。神が長く忍んでおられるために、人びとは、神の権威をふみにじった。彼らは、互いに、競って、神の嗣業である人びとを圧迫し残酷に扱った。『神はどうして知り得ようか、いと高き者に知識があろうか』とかれらは言うのである（詩篇 73:11）。けれども彼らには、越えられない一線が画されている。定められた限界に彼らが達するときに近づいてきた。今すでに、彼らは、神の忍耐の限界を超えようとしている。それは、神の恵みとあわれみの限界である。主はみ手を下してご自分の名誉を擁護し、神の民を救い出し、不義が増し加わるのをおさえられる。」（キリストの実物教訓 158, 159）

## 5. より深い悔い改めの機会

## a. なぜわたしたちは、神の長い忍耐を、非常に感謝できるのですか（詩篇 86: 12-15）。

「主はわたしたちを助け、強め、祝福したいと思っておられる。しかし、わたしたちは自分たちの品性にあるすべての不純物が焼き払われるまで、精錬の過程を通らなければならない。教会員一人ひとりには炉に、焼き尽くされるためではなく、精錬されるために服すことになる。」（教会への証 5 卷 485）

「人を見たり、彼らは無謬だと感じて、人に自分の希望を託してはならない。そうではなく絶えずイエスをながめなさい。わたしたちの信仰に恥辱を投げかけるようなことを何一つ言ってはならない。あなたの秘密の罪をただあなたの神のみ前にのみ告白しなさい。あなたの事情をどのように扱うべきかを完璧にご存じのお方に、あなたの心がさまよっていることを認めなさい。もしあなたが自分の隣人に悪いことをしたなら、自分の罪を彼に認め、償いをするることによってそのことの実を示しなさい。それから、祝福をわがものとして主張しなさい。ありのままで神の御許へ行き、このお方にあなたの弱さをみな癒していただきなさい。あなたの事情を恵みのみ座に訴えなさい。働きは徹底的であるようにしなさい。神とあなた自身の魂を扱うのに誠実でありなさい。もしあなたが真実悔い改めた心をもって御許へ行くなら、このお方はあなたに勝利を与えて下さる。そのとき、あなたは自由のうるわしい証を担い、あなたを暗やみから驚くべきみ光に招き入れてくださったお方の賛美をあらわすことができる。このお方はあなたを誤解したり、誤って判断したりしない。あなたの同胞はあなたを罪からの許しを与えたり、あなたを悪から清めたりすることはできない。イエスこそあなたに平安を与えることのできる唯一のお方である。このお方はあなたを愛し、ご自身をあなたのために与えて下さった。このお方の大いなる愛の心は、『わたしたちの弱さを思いやる』であろうか。どの罪がこのお方にとって許すには大きすぎるであろうか。どの魂はこのお方が救うには暗すぎて、罪に押しつぶされているだろうか。このお方は恵み深く、わたしたちのうちに功績をさがしておられるのではなく、わたしたちがまだ罪人であった時に、ご自身の限りない善がわたしたちの背信を癒すことを求めておられるのであり、わたしたちがまだ罪人であった時に、惜しみなくわたしたちを愛してくださるのである。このお方は、『怒ることおそく、いつくしみ豊かにましまして』『ひとりも滅びることがなく、すべての者が悔改めに至ることを望み、わたしたちに対してながく忍耐しておられる。』（同上 649）

## 個人的な復習問題

1. 世のどの局面が、わたしを神から気をそらさせているかもしれませんか。
2. 霊的に言えば、わたしはどのように同胞の僕を打ちたく罪を犯しているかもしれませんか。
3. なぜわたしは火による裁きがおとずれることについて鋭い自覚を発達させるべきなのでしょう。
4. アブラハムとその子孫たちの嗣業を説明しなさい（ガラテヤ人への手紙 3:29）。
5. なぜわたしはこのわずかな追加の時間を感謝すべきなのでしょう。またわたしはそれをどのように用いるのでしょうか。



## どのような種類の人々か

暗唱聖句：「このように、これらはくずれ落ちていくものであるから、…極力、きよく信心深い行いをしていなければならない。」（ペテロの第二の手紙 3:11, 12）

「利己的な欲望や性情を否定するときに、われわれは価値のない一時的なものと、貴重な永久的なものとを交換しているのである。これは犠牲ではなくて無限の利益である。…キリスト がわれわれにいかなるものを捨てよとご要求になっても、それは主がその代わりに何かもっとよいものを提供してくださるためである。」（教育 349）

推奨文献： 初代文集 53, 54  
各時代の大争闘下巻 446 - 460

日曜日

9月15日

### 1. 避けられず、消すことができない

#### a. 最終的な執行審判は、どのように描写されていますか（ペテロの第二の手紙 3:10）。

「新天新地（黙示録 21:1. イザヤ 65:17. ペテロの第二の手紙 3:13.）は、千年期の終わりに死んだ悪人がよみがえり滅ぼされるまで、現れない。わたしはサタンが千年紀の終わりに、死んだ悪人がよみがえらされるちょうどその時に『その獄から解放される』のを見た。そしてサタンが彼らに聖徒たちから聖都をうばうことができると信じ込ませることによって欺くのを見た。悪人たちはみな、サタンを先頭ににして『聖徒たちの陣営』のまわりを進軍した。彼らが都をうばう努力を払おうとしたときに、全能者が都の上にある高い御座から焼き尽くす火である息を吹きかけ、それが彼らの上に下り、彼らを『根も枝も』焼きつくした。

わたしはキリストがぶどうの木であり、その子らが枝であるように、サタンが『根』であり、その子らが『枝』であることを見た。そして『ゴグとマゴグ』の最終的な滅亡のときに、悪の軍勢全体は焼き尽くされ、『根も枝も』存在しなくなるのである。」（「小さい群れ」への言葉 11, 12）

## 2. 清められた地

- a. 旧約の預言者たちはどのように最終的な悪の滅亡と地の清めをあらかじめ見ましたか（イザヤ書 34:8-10; エゼキエル書 28:16-19）。

「火が天の神のみもとからくだる。地の深いところに隠されていた武器が引き出される。焼き尽くす炎が、地のすべての裂け目から吹き出す。岩石そのものが火になる。『炉のように燃える日』がきたのである。『天体は焼くはずれ、地とその上に造り出されたものも、みな焼きつくされる』（マラキ 4:1、ペテロ第二 3:10）。地の表面は、ちょうど溶けたかたまり、巨大な沸騰する火の池のように見える。それは神を敬わない者たちの、刑罰と滅びの時である。「主はあだをかえす日…をもたれる」。

悪人はこの地上で報いを受ける。箴言 11:31。『万軍の主は言われる、見よ、炉のように燃える日が来る。…』（マラキ 4:1）。一瞬のうちに滅ぼされる者もあり、多くの日の間苦しむ者もある。みな『彼らの行いにしたがって』罰せられる。義人の罪はサタンに移されたので、サタンは自分自身の反逆の罪だけでなく、神の民に犯させたすべての罪のために苦しむ。彼の受ける刑罰は、彼がだました者たちの刑罰よりずっと重い。サタンの欺きによって墮落した者たちがすべて滅びたのちも、彼はまだ生き残って苦しみを受ける。きよめの火によって、悪人たちは根も枝もついに滅ぼされた。サタンが根であり、サタンに従う者たちが枝である。律法の刑罰は全部くだり、正義の要求は果たされた。天と地はこれを見て、エホバの義を宣言する。」（各時代の争闘下巻 459, 460）

- b. 神が次に取りられる段階の美しさを述べなさい（ヨハネの黙示録 20:7-10, 15; 21:1, 2）。

「神がついに地をきよめられるとき、それは限りない火の海のように見える。神が洪水の激動の中で、8人の義人が入っていたがゆえに箱舟を守られたように、このお方は各時代の忠実な者たち、すなわち義人アベルから生きた最後の聖徒に至るまでの義人が入っている新エルサレムを守られるのである。全地が、都のある場所を除いて、火の海につつまれる中、全能者の力の奇跡によって、都は箱舟のように守られる。それは食い尽くす地水火風の猛威の中で害を受けずにいる。」（霊的賜物 3巻 87, 88）

### 3. ありのままの現実

- a. 地上の住民に臨もうとしているどの最終的かつ究極的な現実が、わたしたちに考えさせるべきですか (詩篇 139:23, 24; ペテロの第二の手紙 3:11)。

「真理がわたしたちの心と生活に聖化する感化力を持つとき、わたしたちは神に受け入れられる奉仕を捧げ、地上においてこのお方に栄光を帰し、神性にあずかって、世にある欲によって滅びることをまぬかれることができる。

ああ、どれほど多くの人々が、主人がご自分の僕たちと清算するために来られるときに、準備ができていないことを見られることであろう！多くの人々は何がクリスチャンを構成しているかについて乏しい見解しか持っていない。自己義はそのとき、何の役にも立たない。キリストの義を持っていることを見出される人々、すなわちこのお方の精神を吹き込まれ、このお方が歩まれたように心と生活の純潔さのうちに歩む人々だけがテストに耐え得るのである。会話は聖なるものでなければならない。そのとき、言葉は恵みで味付けられたものとなる。」(教会への証 2 巻 317, 318)

- b. わたしたちが緊急に必要としているより深い献身を説明しなさい (ヨハネの第一の手紙 2:6)。

「真に真理を信じるすべての魂はそれに応じた行いをするようになる。すべての人は熱心で厳粛になり、魂をキリストへ勝ち取る努力にうみ疲れしない。もし真理がまず彼ら自身の魂に深く植えつけられるなら、そのとき彼らは他の人々の心にもそれを植えようと努める。真理はあまりにもすっかり外庭におかれたままである。それを魂の宮の内側に入れ、心の中で王座に就かせ、それが生活を支配するようにしなさい。神のみ言葉を研究し、従わなければならない。そのとき心は休息と平安と喜びを見出し、強い願望が天に向かうようになる。しかし心が生活から離れ、外庭に置かれ続けていると、心は神のいつくしみという輝く火に温められることがない。

イエスの宗教は、多くの人々によって、ある日々、あるいはある場合のために取り置かれており、他の時にはわきへおかれ、なおざりにされている。真理の永続的な原則は単に安息日の数時間のためだけ、あるいは愛のいくつかの行為のためだけではなく、心に持ち込まれ、品性を精練し、聖化するべきである。もし人がこの特別な光や天からの力なしに安全である時が一瞬でもあるなら、彼は神の真理を免ずることができるだろう。聖書、神の純潔で聖なる言葉は、人の勧告者、案内人、生活の支配力でなければならない。それはわたしたちが心に受け入れるなら、わたしたちに対してその教訓を与えるのである。」(同上 5 巻 547)

## 4. 妨げられてはならない

- a. 神の民のための神のご計画を述べなさい。またどのようにこの世に焦点をあてている二心の人々は、その計画やそれによって生きようと務めている人々に対して、どのように反応しますか（テトスへの手紙 2:11-14; 申命記 26:18）。

「主が直ちに來られることを、かつては喜び大声で叫んだ人々の大部分が、かつて主の再臨を信じた彼らを嘲り、あらゆる虚偽を言いふらして彼らに対する偏見を起こさせ、彼らの力を無にしようとした諸教会や世俗の人々と、同じ立場をとるといふ時が來た。今もしだれかが、飢えかわくように義を求め、生きた神を慕い求めて、神の力に触れ、心が神の愛に満ち溢れて満足を味わい、神を賛美して、神に栄光を帰するとするならば、その人は、主が間もなく來られることを信じると公言する人々から、惑いに陥った人間のように邪推され、催眠術をかけられたとか、または、何か悪靈にとりつかれたとか言われるであろう。

キリスト者であると公言する多くの人々は、世俗の人々と同様に装い、語り、行動している。そしてその違いは、口先で言うことが異なっているだけである。彼らは、キリストを待望していると口では言うが、彼らの思いは、天になく、この地上のことにある。『神の日の到來を待望していると口では言うが、彼らの思いは、天になく、この地上のことにある。『神の日の到來を熱心に待ち望んでいるあなたがたは、極力、きよく信心深い行いをしていなければならない』（ペテロ第 2・3:11, 12）。『彼についてこの望みをいだいている者は皆、彼がきよくあられるように、自らをきよくする』（ヨハネ第 1・3:3）。しかし、再臨信徒と称する多くの者が、神の言葉を学んで神に喜ばれる者になろうとすることよりは、自分たちの体を飾って、世俗の人々の目によく見せようと努めていることは明らかである。』（初代文集 206, 207）

- b. 対照的に、わたしたちの焦点は何であるべきですか（コリント人への第二の手紙 4:18）。

「この世での哀れな生活に関するあなたのつぶやきを永遠にやめなさい。あなたの魂の重荷を、いかにこの生涯よりも優れた生涯、すなわち終わりに至るまで真実で忠実な人々のために用意された住まいへの資格をいかに得るかとしなさい。もしあなたがここで過ちを犯すなら、すべてを失うことになる。もしあなたが生涯を地上の宝を確保するために費やし、天の宝を失うなら、あなたは自分が恐るべき過ちを犯したことに気づくようになる。あなたは両方の世界を持つことはできない。」（教会への証 1 卷 706）

## 5. より高い所を見上げる

- a. 過っているかもしれない指導者や他の近い仲間の人間的な弱さに盲目的に信頼することに対して、わたしたちはどのように警告されていますか（イザヤ書 3:11, 12; アモス書 2:4; 4:12）。

「神に仕えていると思われているにもかかわらず、すぐに不信心に取り囲まれてしまう人がいる。彼らにとって、曲がった道がまっすぐに見える。彼らは絶えず神の真理を犯しながら生きている。墮落した諸原則が彼らの生活習慣に織り込まれており、彼らが行くところはどこでも悪の種をまいて回る。他の人々をキリストに導く代わりに、彼らの感化力は疑問や疑いを生じさせる。」（牧師への証 281）

「命の言葉を他の人々に宣布しながら、自分自身はその言葉が繰り返し説くへりくんだり自己否定の精神をいだかない人々に注意しなさい。そのような人は危機の時にあてにならない。彼らはサウルがしたように、神のみ声を現実とみなさない。そして彼のように、多くの人々は自分自身の方針を正当化する用意をしている。主の預言者を通して、主によって警告されるとき、サウルは大胆に自分が神のみ声に従ってきたと断言した。しかし、羊のメーという声や牛のモーという声は彼が従わなかったことを証していた。同じように、多くの人々が今日、神に対する自分の忠誠を断言する。しかし、彼らのコンサートや他の娯楽の集会、彼らの世俗的なつきあい、自己に栄光を帰すこと、また人気を熱烈に願うことなどがみな、彼らが神のみ声には従っていないことを証している。『わが民は幼な子にしえたげられ、女たちに治められる』。

これは福音がわたしたちの前におく高い標準である。矛盾のないクリスチャンは新しいだけでなく、キリスト・イエスにある高尚な被造物である。彼は他の人々に天への道、神への道を示す消えることのない明かりである。キリストから自分の命を引き出している人は、軽率な、満足を与えないこの世の楽しみに対して何も望まないのである。」（教会への証 5 巻 88）

## 個人的な復習問題

1. 一般的に地獄の火と言及されているものについて、聖書的な真理を説明しなさい。
2. 神は消えない火のただ中でどの奇跡をなさいましたか。
3. わたしのクリスチャンの経験は、どのように深まることができますか。またなぜそれが必要なのですか。
4. 救いに関して肉の腕に頼る危険性を説明しなさい。
5. わたしは個人的にもっと永遠に集中して焦点をあてるために、どの段階をふむべきですか。

## 最後まで辛抱する

暗唱聖句：「愛する者たちよ。それだから、あなたがたはかねてからこころがけているように、非道の者の惑わしに誘い込まれて、あなたがた自身の確信を失うことのないように心がけなさい。そして、わたしたちの主また救い主イエス・キリストの恵みと知識とにおいて、ますます豊かになりなさい。栄光が、今も、また永遠の日に至るまでも、主にあるように、アーメン。」（ペテロの第二の手紙 3:17, 18）

「真理の一部を自分たちの後ろに投げ捨てる人々のために聖書の聖化はない。」  
 (SDA パイブル・コメンタリー [E・G・ホフ・コメント] 7 巻 947)

推奨文献： 患難から栄光へ下巻 260 - 270

日曜日

9月22日

### 1. 先を見越してペースを上げる

a. 最終的な火を見ながら、わたしたちは何をどのように召されていますか（ペテロの第二の手紙 3:12）。

「いま人の子が来られる前に、この永遠の福音は、『あらゆる国民、部族、国語、民族』に宣べ伝えられるのである（黙示録 14:6）。神は『世界をさばくためその日を定め』られた（使徒行伝 17:31）。キリストはその日がいつはじまるかをお告げになっている。主は世のすべての人が悔い改めるとは言われないで、『この御国の福音は、すべての民に対してあかしをするために、全世界に宣べ伝えられるであろう。そしてそれから最後が来るのである』と言っておられる（マタイ 24:14）。世に福音を伝えることによって、主の再臨を早めることが、われわれの力のできる。われわれは神の日の到来を待っているだけでなく、これを早めるのである。キリストの教会が命じられた働きを主がお定めになった通りにしていたら、全世界に対する警告はすでに終わって、主イエスは力と大いなる栄光をもってこの地上においでになっていたのである。……」

主を待ち望んでいる者たちは真理に従うことによって自らの魂をきよめる。彼らは油断のない警戒に熱心な働きを結合する。彼らは、主が戸口におられることを知っているのので、魂の救いのために天使たちと協力して働くように熱意をよび起こされる。」（各時代の希望下巻 101-103）



## 2. なんとという特権!

- a. わたしたちは各自、どのように主の再臨を早めるべきですか（伝道の書 11:1, 2, 6）。

「キリストは教会に神聖な責任をお与えになった。教会員はそれぞれ、神がその恵みの富と、計り知れないキリストの富とを世にお伝えになる器とならねばならない。世の人々に、キリストのみたまと品性をあらわす器ほど、キリストが望んでおられるものはない。人間を通して救い主の愛があらわされることほど、世が必要としているものはない。全天は、神がキリスト教の力をあらわすことがおできになる男女を待っている。

教会は、真理を宣べ伝えるための神の機関であって、特別の働きをする力を神から与えられている。もし教会が神に忠実であり、神のすべての戒めに従うなら、教会には神の計り知れない恩恵が内住するであろう。教会が真実に神への忠誠をつくり、イスラエルの神、主をあがめるとき、どんな勢力もこれに対抗することはできない。

神とそのみわざに対する熱意が弟子たちを動かし、偉大な力を発揮して福音をあかしさせた。われわれも同じ情熱を心に燃やし、あがないの愛の物語を、キリスト、しかも十字架につけられたキリストの物語を語る決意をすべきではないだろうか。救い主の来臨を待ち望むばかりでなく、これを早めることがすべてのクリスチャンの特権である。」（患難から栄光へ下巻 308）

- b. 神はどのようにわたしたちのためのご自分のご目的を述べておられますか（雅歌 6:10; 詩篇 60:4）。

「真理と誤謬はその最後の争闘に近づいている。わたしたちはインマヌエルの君の血染めの旗印のもとに進軍しよう。…なぜなら、真理は勝利するからである。」（クリスチャンの奉仕 77）

「教会が世に従うことをやめて、キリストの義の衣を着る時に、教会の前には、輝かしい栄光の日の夜明けがある。教会への神の約束は、永遠に堅く立つであろう。神は教会をとこしえの誇り、代々の喜びとなさる。真理は、それをさげすみ拒む人たちを通過して、勝利する。ときには一見妨害されたように見えても、真理の前進は決して阻止されたことがない。神の使命が反対に会うと、神はその使命が一層大きな感化を及ぼすように、それに力をお加えになる。こうして聖なる力を備えた真理は、どんな堅固なとりでもつきぬけ、どんな障害にも勝利するのである。」（患難から栄光へ下巻 310）

### 3. 力と希望

- a. 魂を救うという使命を実行したいと切望するすべての信徒に、どの力が提供されていますか (イザヤ書 53:11; コリント人への第二の手紙 5:14, 15; 12:9)。

「わたしたちすべての者に、直面し担うべき苦勞、戦い、自己否定、心のうちに秘められた試練がある。わたしたちの罪のために悲しみや涙があるであろう。わたしたちの欠陥のゆえに悔恨や恥辱の混じったたえざる苦闘や見張りがあるであろう。

…

キリストの愛がわたしたちに迫って同情深くやさしい者とするように。こうしてわたしたちは誤っている者や、神から背信してきた人々のために泣くことができるためである。魂には無限の価値がある。その価値はそれを贖うために支払われた代価によってのみ正しく評価することができる。カルバリー!カルバリー!カルバリー!が魂の真の価値を説明している。…

心に及ぶ恵みの力がわたしたちの努力を支援し、わたしたちの働きを聖化するの  
でなければ、自分自身の魂を救うことにも、他の人々の魂を救うことにも失敗する  
であろう。制度や秩序は非常に重要である。しかし、だれ一人、それらのものが、  
思いと心に神の恵みと力が作用しなくても働くという印象を受けてはならない。心と  
肉は儀式的繰り返しによって衰え、また実行するための靈感を与え、勇気を与える  
神の力なしに、自分たちの計画を実行することによって衰える。」(教会への証 3 卷  
187, 188)

- b. なぜ永遠の希望は非常に靈感を与えるのですか (ペテロの第二の手紙 3:13; 詩篇 149:4)。

「柔和な者は『地を受け継ぐであろう。』罪がこの世界に入り、最初の両親がこの美しい地、彼らの王国の統治権を失ったのは、自己を高める野心によってであった。キリストが失われたものを贖(あがな)われるのは自己放棄によってである。主はわたしたちが主と同じく勝利しなければならないと言われる(黙示録 3:21 参照)。『柔和な者は国を継ぐ』時、わたしたちは謙そんと自己屈服によって、主とともに世継ぎとなるのである(詩篇 37:11)。

柔和な者に約束された地は、死の陰とのろいで暗くなったこの地上のようなところではない。『わたしたちは、神の約束に従って、義の住む新しい天と新しい地とを待ち望んでいる』(ペテロ第二 3:13)。

そこには失望も、悲しみも、罪も、わたしは病気だと言う者もない。また葬式の行列も、嘆きも、死も、別離も、悲嘆もない。」(祝福の山 21)

#### 4. 真剣な召し

- a. ペテロは自分の手紙の中で何を強調していますか。またそれはなぜですか（ペテロの第二の手紙 3:14）。

「わたしたちはある日、次の自分の戦いがどれほど強いものになるかはわからない。サタンは生きており、活動的である。であるから、わたしたちは毎日真剣にサタンに抵抗するための助けと力を求めて神に真剣に叫ぶ必要がある。サタンが統治しているかぎり、わたしたちには征服すべき自己があり、克服すべきからみつく罪がある。立ち止まる場所はなく、十分に到達したと言える地点もない。

ピリピ 3:12：わたしがすでにそれを得たとか、すでに完全な者になっているとか言うのではなく、ただ捕えようとして追い求めているのである。そうするのは、キリスト・イエスによって捕えられているからである。

クリスチャン生活は絶えず前に進む進軍である。イエスはご自分の民を精練し、清めるお方として座しておられる。そしてこのお方のみかたちが完全に彼らのうちに反射される時、彼らは完全であり、聖であり、昇天のために準備ができるのである。クリスチャンには大いなる働きが要求されている。わたしたちは自らを肉と霊の汚れから清めるように、神の畏れのうちに聖潔を完成するように熱心に勧められている。」（教会への証 1 巻 340）

- b. なぜわたしたちの聖化にとって忍耐は重要不可欠なのですか（ペテロの第二の手紙 3:15, 16; ルカによる福音書 21:19）。

「聖書には、理解するのが難しい箇所があって、ペテロの言葉にしたがって言えば、無学で心の定まらない者たちは、無理な解釈をほどこして、自分の滅亡を招いている。わたしたちはこの世の生涯では、聖書のすべての聖句の意味を説明できないかもしれない。しかし、実際的な真理の命にかかわる点で神秘の雲に囲まれているものはない。神のみ摂理のうちに、世界がこの時代のための真理について試される時がくれば、思いは聖書を探るように神の御霊によって働かされ、断食と祈りをもってさえ、次々と輪が探し出されて、完全な鎖のうちに一つにつながる。魂の救いに直接的に関わるすべての事実は、だれも誤ったり闇の中を歩く必要がないように非常に明確にされる。

わたしたちが預言の鎖をたどるとき、わたしたちの時代のために啓示された真理がはっきりと見え、説明される。わたしたちは享受している特権とわたしたちの道を照らす光に対して責任がある。」（同上 2 巻 692）

「あなたがたに関する『神のみこころは、あなたがたが清くなることである』（テサロニケ第一 4:3）。あなたがたもそう願っているだろうか。」（患難から栄光へ下巻 270）

## 5. 希望の中に動かされず

- a. ペテロはどのように油断なくやり通す忍耐を勧めていますか（ペテロの第二の手紙 3:17）。

「神のみことばに示されている命令には、悪と妥協するための余地がない。神のみ子は、すべての人たちをご自身のもとに引き寄せることがおできになることを証明された。主はこの世を寝かしつけるために来られたのではなく、神の都の門にたどり着こうとする者がみな通らねばならない狭い道を示すために来られた。主の子らは主が導かれる道をたどらなければならない。どんなに気楽さや自己放縦を犠牲にしても、どんなに労働や苦難をかけても、彼らは自己との絶えまない戦いを続けなければならない。」（患難から栄光へ下巻 269）

- b. 手紙を閉じるにあたり、使徒の最後の訴えは何ですか（ペテロの第二の手紙 3:18）。

「あなたがたの罪は山のようにになっているかもしれないが、十字架につけられ、よみがえられた救い主のいさおしにすがって、へりくだり、罪を告白するならば、神はあなたがたをゆるし、あらゆる不義からきよめて下さる。神は神のおきてに全く一致するよう要求なさっている。このおきては、もったときよくなれ、もったときよくなれと語りかける神のみ声のこだまである。キリストの恵みに満たされるよう望みなさい。キリストの義を求める切なる願いで心を満たそう。神のみことばが宣べる義は平和をつくり出し、とこしえの平穏と信頼をもたらすのである。

あなたは神を慕うにつれて、その恵みの無尽蔵の富をますます知るようになる。この富について瞑想すると、この富があなたの手にはいり、キリストの犠牲の功績と、その義の擁護と、その知恵の豊かさ、そしてあなたを天父の前に『しみもなくきずもな』い者として差し出して下さるみ力が明らかになる（ペテロ第二 3:14）。」（患難から栄光へ下巻 270）

## 個人的な復習問題

1. わたしたちの熱心が真によみがえらされたという証拠を与えるのは何ですか。
2. わたしは主の再臨を早めるために、実際どの段階を踏むことができますか。
3. あらゆるおどしや脅迫にもかかわらず、だれがこの世界を受け継ぎますか。
4. わたしは聖化の過程について、なぜ非常に真剣になる必要があるのですか。
5. わたしが自分の大きな罪の深さを見るとき、どうすべきですか。

# 第一安息日献金



7月6日

リビエラの礼拝堂、学校、  
事務所のために

(4 ページ参照)

8月3日

世界総会の教育支部の  
ために

(25 ページ参照)



9月7日

アンゴラ・ユニオンの本部の  
ために

(50 ページ参照)

